

付 録

年 表

年 表 凡 例

1. 本年表では、東京大学先端科学技術研究センターの20年の歴史に対応して、1987年1月1日から2007年5月末までの範囲を収録している。ただし、先端科学技術研究センター発足の重要な出来事については、「前史」として次頁に掲載してある。年表は、「先端研」・「社会」・「科学」の三部に分けた。
2. 「先端研」には、主な人事異動、組織改編、シンポジウムやオープンハウスなどの開催、建物の竣工、関係人物の物故などを収録した。
3. 「先端研」については、先端科学技術研究センターが過去に発行した「先端研ニュース」（1987～2007）、「先端研紀要」（1987～1998）、「先端研10年のあゆみ」（1997）、「先端研概要（パンフレット）」（1987～2006）、その他内部資料、ウェブサイトなどをもとに作成した。
4. 「社会」には、重要と思われる国内外の政治・経済・社会の動きを収録した。
5. 「科学」には、国内外の科学一般における重要な発見、進展などを主に収録した。
6. 「社会」および「科学」については『読売年鑑』（読売新聞社、各年版）、『近代日本総合年表』（岩波書店、第4版、2001年）などをもとに作成した。
7. また、各年度の「先端研概要（パンフレット）」に掲載されている当時の先端科学技術研究センター所長（センター長）のあいさつ、またその年の主な出来事の写真を、あわせて年表の対向頁に載せてある。所長あいさつについては、一部明らかな誤字や改行を修正し、数字を全角から半角に直したほかは、原則として原文のまま掲載した。

前 史

東京帝国大学航空研究所の
教職員集合写真



- 1877 東京帝国大学創立
- 1918 東京帝国大学航空研究所設立
- 1946 東京大学理工学研究所設立
- 1958 東京大学航空研究所設立
- 1964 東京大学宇宙航空研究所設立
- 1981 4. 東京大学宇宙航空研究所が文部省宇宙科学研究所と
東京大学工学部附属境界領域研究施設に再編され、
後者は7年間の時限施設に
- 1985 12. 境界領域研究施設廃止後の東大の体制整備のため
「東京大学国際学術交流センター」構想が浮上
- 1986 1. 「国際学術交流センター（仮称）に関する懇談会」発
足
- 1986 4. 第7回懇談会において新設予定機関の名称を「先端
科学技術研究センター」とすることに決定



航研機の11651.011kmという周
回航続距離世界記録（1938年達成）
の証書



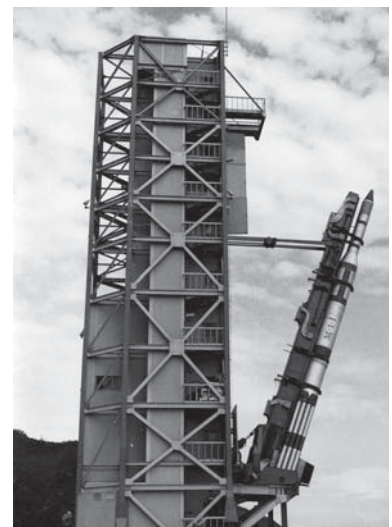
航空研究所は大学の研究機関ではあったが、次
第に軍部との結びつきが強くなる



占領軍の航空禁止令により航空研究所は解
散させられ、一時期理工学研究所となる。
占領が終了した後、航空研究所は復活を遂
げる。写真はその開所式の1コマ



航空研究所には、糸川英夫を中心とする生産技術研究所の宇宙
開発グループが合流し、宇宙航空研究所へと改組する。写真は
宇宙航空研究所時代に建設された56号館。2007年現在でも
使用されている

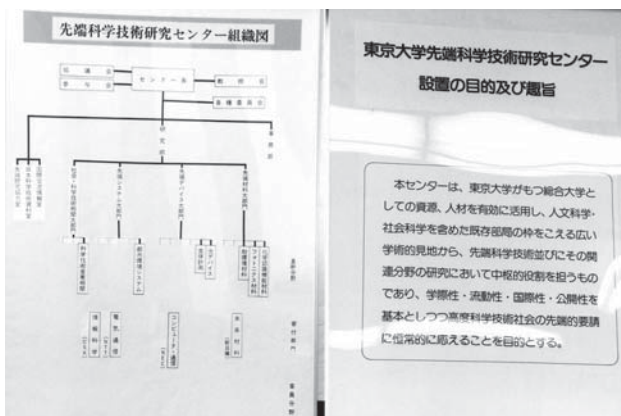


宇宙航空研究所は、日本の宇宙開発を支え、華々しい成
果を挙げた。しかし同時に、多額の予算、開発の非効率
性、経費流用等のスキャンダルが頻発し、各方面から批
判を受けることになる。これが後の宇航研分割の要因と
なる。写真はM-4Sロケット計画の試験機であるM-1-1

1987年（昭和62年）



先端科学技術研究センター開所式（7月15日）であいさつする大越孝敬センター長



開所式会場に設置された先端研について説明するパネル2枚。左の組織図では基幹分野は7つしか記されていない。右は設立の趣旨や4つのモットーについて



先端研設立の中心人物であった、猪瀬博元工学部長の祝辞

1987年センター長あいさつ

センター長 大越 孝敬

東京大学先端科学技術研究センターは、1987年5月21日、正式に発足いたしました。本センターを斬新かつ大胆な発想を以て立案され、周到な計画によって実現された関係者各位に対し、深く敬意と謝意を表す次第であります。

本センターの設置の目的は、「東京大学が持つ総合大学としての資源、人材を有効に活用し、人文科学・社会科学を含めた既存部局の枠をこえる広い学術的見地から、先端科学技術ならびにその関連分野の研究において中核的役割を担うものであり、学際性・流動性・国際性・公開性を基本としつつ高度科学技術社会の先端的要請に恒常的に応えること」にあるとされております。ここに込められた夢はまことに壮大であり、この夢を実現のものとするのが、我々センター所員のこれからの仕事であります。

「学際性」については、すでに4学部から教官が着任し、異分野間の密接な接触によって清新の気風が生まれております。明年4月には一層の拡充・整備も予定されており、センター所員一同その準備に邁進しております。「流動性」の実現は今後の課題ですが、それを長期間にわたって保証する方策の検討がすでに始められております。「国際性」につきましては、民間の御厚志による寄付研究部門に専ら外国人科学者を招聘することにより、まずその実現をはかってまいります。最後に「公開性」については、我々自身の意識を変革し、日本社会のみならず広く国際社会の産・学・官・民各セクターと可能な限り開放的に交流する精神を興すことが、何よりも肝要と考えております。

センター所員一同、課せられた責任の重さを肝に銘じ、皆様のご期待に沿えるよう全力を尽くす覚悟でありますので、学内外の各位の一層の御指導と御鞭撻を切にお願い申し上げます

先端研

1. 「先端科学技術研究センター設立準備委員会」発足
- 3.17 センター規則、センター参与会規則、センター協議会規則を東大評議会で可決
- 5.21 先端科学技術研究センター発足（基幹7研究分野、教官定員14名）
センター規則、センター参与会・協議会規則施行
大越孝敬センター長就任
- 5.25 先端研、境界研顔合わせ会
- 6.24 先端研スタッフ顔合わせ懇親会
7. 「先端研ニュース」創刊
- 7.15 先端科学技術研究センター開所式
- 10.22 コンピュータ・通信（NEC）寄付研究部門設置（寄付研究部門第1号）
- 11.16 第1回先端科学技術セミナー開催、以後毎月開催
12. 先端研ニュース第2号発行
- 12.15 大部門及び分野の見直しに関する内規施行

社会

- 1.24 閣議で防衛費対GNP比1%枠撤廃を決定
- 1.30 東京株式市場日経平均株価が初の2万円台
- 2.4 政府、売上税法案提出も、5月27日廃案に
- 2.9 NTT株上場、初値160万円
- 2.23 日銀が公定歩合を2.5%に引き下げ、財テクブーム誘発
- 3.30 安田火災海上がゴッホの「ひまわり」を53億円で落札
- 3.31 三井物産マニラ支店長誘拐事件、若王子支店長が救出される
- 4.1 国鉄分割民営化、JRグループ各社開業
- 4.17 米国が半導体で対日報復措置を発動
- 4.28 東芝機械がココム規制違反で告発される、7月会長・社長辞任
- 5.3 朝日新聞阪神支局で記者が射殺される（赤報隊事件）
- 6.13 衣笠祥雄選手（広島東洋カープ）が2131試合連続出場の世界新記録
- 7.17 石原裕次郎死去
- 9.22 天皇が腸の手術
- 10.19 ブラック・マンデー、翌日の東京市場も大暴落
- 11.6 竹下登内閣発足、所信表明で「ふるさと創生」提唱
- 11.29 大韓航空機事件
- 12.8 米ソ、INF全廃条約に調印
- 12.16 韓国で16年ぶりに大統領直接選挙、盧泰愚が当選

科学

1. 田中昭二らがLa-Ba-Cu酸化物で絶対温度30度における超伝導現象を観測
- 1.17 日本で初のエイズ患者認定
- 2.4 リニアモーターカー実験で有人走行としては世界最高の時速400キロ達成
- 2.25 日本電信電話、16メガビットの記憶素子の開発に成功
- 3.9 日本気象協会が「スギ花粉情報」を発表
4. 小柴昌俊ら、神岡鉱山において超新星SN1987Aのニュートリノ爆発を観測
- 4.7 文部省高エネルギー物理学研究所、電子陽電子衝突型加速器トリスタン完成
- 7.2 日立製作所が演算速度3ギガflopsのスーパーコンピュータ発売
- 8.20 第18回低温物理学国際会議、京都で開催
- 10.12 利根川進教授にノーベル医学生理学賞

1988年（昭和63年）



古川俊之教授、藤正巖助教授らが人工心臓の研究のためにグラウンドで飼っていたヤギ。初期の先端研の雰囲気象徴している



第1回先端研協議会（9月29日）

1988年センター長あいさつ

センター長 大越 孝敬

東京大学先端科学技術研究センター（先端研）は、1987年5月21日、正式に発足し、また1988年4月1日には、かねて予定されていた拡充を行って19基幹研究分野、4客員分野、4寄付研究部門（全教官数48名）の体制を整えました。拡充新発足の機会に、先端研の立案と実現に尽力された大学内外の関係各位に対し、改めて厚く御礼を申し上げます。

先端研には、他の研究所と著しく異なる点がいくつかあります。

第1は、大学内外の多数の機関から、各分野の優れた人々を集めて作られた学際的研究所であることです。教官の出身母体は、東大内で4つの学部と1つの研究所、東大外で10カ所以上の研究機関、大学に及んでいます。また研究分野は科学技術全域からその社会的・人文的側面にまで亘っています。

第2に、優れた外国人科学者を多数、客員教官としてお招きしています。1988年6月現在、米国はじめ4カ国から合計6人が参加しています。又きびしい国家財政の中でこのような招聘を可能にする為に、日本の国立大学でははじめて、民間の御厚志による寄付講座を、4講座開設させて頂きました。

第3に、既存の学部のいわゆる講座とは異なり、ある研究分野（学部の「講座」に相当）はいつまでもそのまま続くわけではありません。すべての研究分野は、10年以内に必ずその内容の適否を見直すことが、内規で定められています。又、それにともなって、当然教職員の大学内外の移動が生じます。

第4に、我々は象牙の塔にこもる事なく、積極的に外部と交流します。外国人だけでなく、国内の他大学・研究所からも4名の客員教授をお招きしており、又公開の談話会等が行われています。

以上4点を取りまとめたものが、先端研の4大モットーである学際性、国際性、流動性、公開性であります。これらは、とりもおさず、111年の歴史を誇る東京大学にあって、未だ達成不十分とされる諸点に他なりません。言い換えれば、先端研が求められていることは、明日の東京大学のあるべき姿を見定めて、新しい学問のあり方を果敢に追求することにあると思います。

センター所員一同、課せられた責任の重さを肝に銘じ、皆様のご期待に沿えるよう全力を尽くす覚悟でありますので、学内外の各位の一層の御指導と御鞭撻を切にお願い申し上げます。

先端研

- 1.6 未来材料（新日鉄）寄付研究部門設置
- 1.16 電気通信（NTT）寄付研究部門設置
- 3. 先端研設立準備委員会解散
- 3.23 情報科学（CSK）寄付研究部門設置
- 3.31 「工学部附属境界領域研究施設」廃止
文部省宇宙科学研究所が淵野辺（神奈川県相模原市）に移転
- 4. 2、3、13、14、22、45、57号館全面使用へ
- 4.1 19基幹分野、4客員分野、4寄付研究部門（全教官定員48名）に拡充改組
- 4.5 第1回教授会
- 4.8 渡邊吉和事務長就任
- 4.11 第1回運営幹事会
先端研全員集会
- 6. 図書室が13号館1階から2号館1階に移転、業務再開
- 6.4 東大生協先端研支所発足

- 7. 先端研ニュース第3号発行
- 7.5 教授会に関する内規制定

- 9.15 先端研紀要第1巻発行
- 9.29 第1回協議会
- 9.30 全研究協力組織との間で「教官人事の円滑な実施に関する覚書」交換終了
- 10. プロセスセンターリソグラフィー室完成
- 11.21 先端研プロセスセンター開設、見学・披露会

社会

- 1.13 台湾総統に李登輝

- 3.13 青函トンネル開通、青函連絡船廃止
- 3.17 東京ドーム完成
- 3.24 中国で列車衝突事故、修学旅行中の日本人高校生ら死亡
東大教養学部で中沢新一の助教授採用をめぐり教授会対立
- 4.10 瀬戸大橋開通、宇高連絡船廃止

- 6.18 川崎市助役がリクルートの未公開株譲渡で1億円の利益を上げていたことが発覚。その後政界全体に波及
- 6.20 日米が牛肉・オレンジの輸入自由化交渉合意
- 7.3 米艦がペルシャ湾でイラン旅客機撃墜
- 7.23 海自潜水艦「なだしお」が遊漁船「第一富士丸」に衝突、漁船乗客30人死亡
- 8.20 イラン・イラク戦争停戦協定
- 9.17 ソウル・オリンピック開催
- 9.19 天皇の容体悪化、自粛ムード広がる
- 9.21 南海ホークスをダイエーが買収

- 11.8 米大統領選で共和党のジョージ・H・W・ブッシュ当選
- 11.27 千代の富士の連勝記録が53でストップ
- 12.7 東京株式市場日経平均株価が初の3万円台

科学

- 1. 森重文、単有理的でない三次元代数多様体の極小モデルの存在を証明
- 1.12 日本医師会が脳死段階での臓器移植を可能とする報告書答申
- 3.8 川崎製鉄・日立製作所が連続鋳造機により3センチ厚の極薄スラブの製造に成功
- 3.31 真崎知生ら、血管収縮性ペプチド「エンドテリン」の構造を決定

- 10.13 キヤノン、大記憶容量の光磁気ディスクメモリー発売

1989年（平成元年）



第1回参与会（1月13日）。外部識者の意見を取り入れる、当時の国立大学としては珍しいシステムであった（第1章第2節参照）



第2回先端科学技術公開シンポジウム（8月7日）

1989年センター長あいさつ

センター長 柳田 博明

東京大学先端科学技術研究センター（「先端研」と略称）は本年第3年度に入った。今までの2年間で創設と体制固めのためにあったとすると、これからは充実と発展のためにあるものとしたいと思う。

ここでそもそも「先端研」がどのような背景で構想され実現されたかを振り返ってみたいと思う。東京大学ではかねて高度の先端研究を活発に行い、研究を通じて先端分野で必要とされる優秀な人材を育成するためのいわゆる「高等研究所」構想が練られていた。その構想の根幹となっていたのが、現在、先端研の4大モットーである「学際性」、「国際性」、「公開性」、「流動性」である。第1のポリシーである学際性は、東京大学が総合大学として有する、優れた人的資源を活用することで可能にしようとした。多くの部局から先端性、学際性に優れた人材を招くことを考えたのである。第2のポリシー国際性は、優れた外国人研究員を従来より機動的に招聘する機構を考えることで達成しようとした。公開性はまさに大学の研究者にとって何よりも重要な権利であり、義務であると思う。大学における先端研究こそ徹底した公開性に基礎を置かなければならないと思うのである。公開性にもとるいわゆる産学癒着、軍事研究は決してあってはならない。第3の「人事」流動性は、先端研究が緊張と刺激に常にさらされる宿命にあることを考えると、この確保は不可欠である。わが国の人事流動性の現状を見ると流動性の確保は非常に困難であることは承知しながら、しかしこれこそ「高等研究所」の生命線であることを認識し、絶対貫こうと話合っていた。

さて、この「高等研究所」構想をどのようにして実現するかを検討すると、最大のネックであったのは歴史ある学部、研究所での運営、意思決定における機動性の不足であった。歴史のある部局はほとんど枠組みが固定してしまっているからである。どうしても新しい組織を作らなければならなかった。しかも、いわゆるゼロシーリングの中で、である。それは「高等研究所」構想を練っていた当初から見ると予想外の所で可能になった。昭和63年3月31日時限で廃止が決定となっていた旧境界領域研究施設の改組案すなわち先端科学技術研究センター創設案、となり認められたのである。

「高等研究所」構想にとって旧境界領域研究施設が組織の母体となったことは幸せなことであり、残念なことでもあった。幸せなことと言うと、ともかく「高等研究所」構想は紙上の案ではなく不満足な形ではあれ実現されたからである。わが国ではじめての国立大学の研究機関における寄付研究部門が認められ、優れた外国人研究者をこの部門に招聘することが可能になり国際性が大いに進展した。新しい構想に賛同していただいた意欲的で優れた教官の参加を得ることができ、学際的な研究が大いに進むようになった。先日（1989.4.7）おこなわれた先端研シンポジウムでの活況さは機会あるごとに話題になっている。われわれはこのことを誇りに思う。一方、残念なこと、と言うのは、建物、設備、人員配置などをそのまま受け継いでいるということである。建物・設備も新構想の先端研究のために適しているとは言えず改修のために多大の出費が強いられた。人員配置については、「高等研究所」では、部門当たり教授1、助教授1、助手3、技官2が必要と考えていたが、現先端研では、基幹分野で教授1、助教授・講師1- α 、助手1- β 、技官1- γ しか配当されていない。客員分野は教授1のみである。また寄付研究部門にも技官が配当されていない。全学共同利用としてのサービス、国際性、公開性、流動性の円滑な実現のための事務職員の陣容も定員数に極めて憂慮すべき状態にあると言わざるを得ない。大学院問題にもまだ充分な整備がなされていない。先端研究の重要性が認められて平成2年度より分野あたり修士2、博士1の定員が配当されたが、これで満足すべきものとは考えられない。

しかし不満足な枠組みに縛られて耐えることに慣れてしまっただけとはいえないと思う。私はこの4月センター長就任にあたって、枠組みを固定したものとは諦めてはならない、発展のために少しでも良い方向へ枠組みを変えていきたい、と挨拶した。先端研が与えられた枠組みに縛りつけられることに甘んじてしまったら、そして「高等研究所」の理想を忘れたら、先端研の存立の意味はなくなってしまうと思う。先端研所員はこの認識のもとに意欲的に研究を進展させたいと考えている。

学内外、そして国の内外の各位に一層の御支援と御鞭撻をお願いする次第である。

先端研

- 1.1 未来化学（三井東圧化学）寄付研究部門設置
- 1.13 第1回参与会
- 3. 先端研ニュース第4号発行
- 3.31 大越孝敬センター長
- 4.1 柳田博明センター長
- 4.1 都市開発工学（GC－5）寄付研究部門設置
- 4.7 第1回先端科学技術公開シンポジウム
- 8.7 第2回先端科学技術公開シンポジウム
- 8.31 先端研紀要第2巻発行
- 9. パブリック・レクチュア・シンポジウム
- 9.22 国際公開フォーラム「人類の未来に関する創造的研究をめざして」開催
- 10.21 未来システム（三菱重工業）寄付研究部門設置
- 10.26 第1回オープンハウス（～28日）
- 11. 先端研ニュース第5号発行
- 11.7 第3回先端科学技術公開シンポジウム
- 11.16 第2回協議会

社会

- 1.7 天皇崩御、新元号は平成。2月24日大喪の礼
- 2.9 手塚治虫死去
- 2.15 ソ連軍がアフガニスタンから撤退完了
- 3.30 女子高生コンクリート詰め殺人事件で容疑者の少年逮捕
- 4.1 消費税制度スタート
- 4.15 胡耀邦前中国共産党総書記死去
- 4.21 任天堂がゲームボーイ発売
- 4.25 竹下首相、政局混迷の責任を取り予算成立後の退陣を表明
- 4.27 松下幸之助死去
- 4.28 衆院本会議で予算案を自民党が単独可決、5月28日自然成立
- 5.15 ゴルバチョフ訪中、中ソ関係正常化
- 5.25 米、スーパーコンピュータ、木材製品、人工衛星の3品目に対しスーパー301条に基づく対日適用決定
- 6.3 宇野宗佑内閣発足
- 6.4 天安門事件、中国が国際的孤立
- 6.24 美空ひばり死去
- 7.23 消費税、宇野首相の女性スキャンダル等の影響で、参院選で自民過半数割れ
- 8.4 日米構造協議開始
- 8.10 海部俊樹内閣発足
- 宮崎勤を逮捕、のち連続幼女殺害を自供
- 9.27 ソニーが米映画会社コロビアを買収
- 9.29 千代の富士が角界初の国民栄誉賞受賞
- 10.9 千葉市の幕張メッセ開業
- 10.31 三菱地所が米不動産会社ロックフェラー・グループ社買収発表
- 11.9 ベルリンの壁崩壊
- 11.15 坂本堤弁護士一家が行方不明になっていることが判明、公開捜査開始
- 11.22 日本労働組合総連合会（連合）成立
- 12.2 マルタでブッシュ・ゴルバチョフ会談、冷戦終結を宣言
- 12.17 日銀総裁に三重野康が就任
- 12.22 ルーマニアのチャウシェスク独裁政権崩壊
- 12.24 米、パナマ侵攻
- 12.29 東証平均株価が3万8915円87銭の史上最高値

科学

- 3.7 日本通信衛星、初の民間通信衛星打ち上げ
- 4.10 日本電気、スーパーコンピュータ〈SX－3シリーズ〉開発・販売
- 6.1 NHK、衛星放送開始

1990年（平成2年）



第6回先端科学技術公開シンポジウム（9月20日）で大越孝敬・軽部征夫・大須賀節雄・村上陽一郎各教授らの話に聞き入る参加者。先端研の「固定ファン」ともいふべき参加者も多かったという



先端研では毎年、忘年会が行われる。
この年の忘年会での一コマ

1990年センター長あいさつ

センター長 柳田 博明

東京大学先端科学技術研究センター（略称「先端研」）は1990年第4年度に入った。先端研はたて割の学問体系によって設置されている従来の学部・研究所では推進が困難な「学際性」に基づいた「先端科学技術」を「機動的」に研究・教育するために設立された学内共同利用のセンターである。そのポリシーとすることは「学際性」、「国際性」、「公開性」、「流動性」である。

1990年5月現在4大部門（先端材料、先端デバイス、先端システム、社会科学技術相関）に基幹分野19、客員分野4、寄付研究部門7が置かれ、上記のポリシーに基づいた活発な研究・教育活動をおこなっている。

先端研の使命は新しい概念を提唱し自ら実践することにある。各分野での研究・先端研内外の学際的研究はもとより、教育・研究体制、先端科学技術のあり方についても先導的役割が課されている。前例のない、しかも将来の指針となる途を拓き提示する重大な任務を意気高く推進することが求められている。

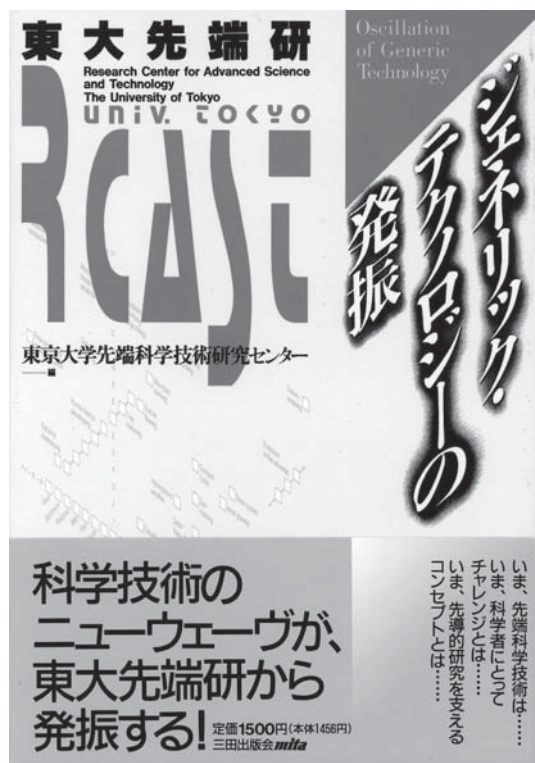
現在鋭意推進を図っている大学院における学際的・社会的な人再教育も先端研のポリシーと任務にかない、かつ強い社会的要請に応えるものとして、是非とも実現させなければならないと考える。困難な枠組みがあることは承知で進みたい。

先端研の置かれている枠組みは、人員構成的にも組織論的にも決して容易なものではない。しかしこれをバネにして発展して見せることこそ先端研の本来の設置の意味を示すものとなるであろう。

学内外、国内外の各位の御支援・御鞭撻をお願いする次第である。

先端研	社会	科学
2.22 第2回参与会	1.13 初の大学入試センター試験実施 1.18 本島等長崎市長狙撃事件 2.18 衆院選、自民堅調・社会躍進	1.24 文部省宇宙科学研究所、日本で初めて月に接近する人工衛星「ひてん」打ち上げ成功 2.8 東大病院児玉龍彦助手ら、動脈硬化に決定的な働きをする遺伝子を発見と発表 2.16 東大医科学研究所倫理審査委員会、脳死肝移植を承認 2.21 蛋白質工学研究所の田中俊樹主任研究員ら、アミノ酸232個の人工タンパク質をコンピュータ等による設計どおりに合成することに成功 2.22 日本の通信・放送2衛星を搭載したアリアンロケット、仏領ギアナで打ち上げ直後、空中爆発
3.1 第4回先端科学技術公開シンポジウム 3.31 渡邊吉和事務長退任 4. 全学一般教育ゼミナール開講 4.1 土田坦事務長就任 4.6 第2回先端材料強度向上と評価シンポジウム 5. 先端研ニュース第6号発行 6.21 第5回先端科学技術公開シンポジウム 7.3 「東京大学先端科学技術センターにおける大部門および分野の見直しに関する内規」教授会確認	3.22 東京株式市場日経平均株価3万円割れ 3.23 国土庁が地価公示価格公表、地価暴騰のピーク 4.1 三井銀行と太陽神戸銀行が合併、太陽神戸三井銀行に（92年にさくら銀行と改称） 5.25 岩戸景気に並ぶ、この頃高金利と株価続落でバブル崩壊開始 6.11 ベルルー大統領にアルベルト・フジモリが就任 6.29 礼宮文仁親王と川嶋紀子さんご成婚 7.6 神戸市で女子高校生校門圧死事件 8.2 イラク軍がクウェート侵攻 9.24 金丸信自民党衆院議員ら与野党議員団訪朝 9.30 ソ連と韓国が国交樹立 10.1 東京株式市場日経平均株価2万円割れ 10.3 東西ドイツ統一 10.15 ミハイル・ゴルバチョフソ連大統領にノーベル平和賞 11.8 国連平和協力法案廃案確定 11.17 雲仙普賢岳が200年ぶりに噴火 11.21 スーパーファミコン発売 11.22 英サッチャー首相が辞意表明 12.2 秋山豊寛が日本人初の宇宙飛行士としてソ連のソユーズ号に搭乗 12.19 緒方貞子上智大外国語学部長、日本人女性で初の国連難民高等弁務官に	4.20 長岡技術科学大グループ、放射光を利用しインタフェロンの立体構造を解明と報道 6.7 日立製作所、世界初の64メガビットDRAM試作成功 東京医科歯科大のグループが睡眠を強く促す物質を脳から分離と発表 7.18 速水正憲京大教授、見上彪東大教授らが猫のエイズウイルスの遺伝子を明らかにしたと発表 国立遺伝子研究所の宝来聡助手がミトコンドリアの遺伝子を調べた結果、チンパンジーが人間に最も近いと発表 8.2 国立循環器病センター、胎児を体外で手術し母体に戻す母体外手術に成功と発表 8.20 千葉県畜産センターと農水省畜産試験場の研究グループが受精卵を分割、日本初のクローン牛出産を成功 8.21 森重文京大教授がフィールズ賞受賞 8.28 放送衛星3号a打ち上げ 10.22 科学技術庁無機材質研究所、最新鋭の超高分解能超高压電子顕微鏡によって酸素原子を直接観察することに世界で初めて成功 11.7 超電導工学研究所の村上雅人主任研究員が高温超電導体の磁石で人間を浮上させることに成功 11.26 三菱化成・三菱商事合併の植物工学研究所、縞葉枯病に抵抗性のある稲を遺伝子工学で作成と発表 12.1 ソニー、世界初の家庭用ハイビジョンテレビ発売

1991年（平成3年）



人工知能講演会（5月24・25日）で基調講演を行う大須賀節雄教授。講演会は、1988年からのCSK寄付研究部門の終了にともなって開催された

3月15日に「東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振」と題する書籍が刊行された。発行は、公開シンポジウムなどでも縁の深かった三田出版会である。内容は、先端研教授陣へのインタビューが中心

1991年センター長あいさつ

センター長 大須賀 節雄

東京大学先端科学技術研究センター（省略「先端研」）は1987年に設立されて早くも4年余が経過しました。先端研の設立には高等教育研究機関として将来の大学のあるべき姿を模索するという意味合いがあり、その実現のための基本理念として「学際性」、「国際性」、「公開性」、「流動性」を掲げてきました。先端研はこの理念のもとで、日本のセンターオブエクセレンスとして世界の情報発進基地たるべく努力してまいりました。

1991年9月現在4大部門（先端材料、先端デバイス、先端システム、社会科学技術相関）の19基幹分野、4客員分野に加え、8寄付研究部門が置かれ、積極的に研究活動を展開しています。数の上からは組織面に大きな変化がないように見えますが、上記の理念を確実に維持してゆくため、特に組織面に関わる流動性を維持するために、分野の見直しがすでに始まっています。先端研の使命は創造的な科学技術の芽を育ててゆくことにあり、これに相応しい組織を維持することは極めて重要なことと考えています。

また上記の理念を実現し、急速に変化しつつある社会の要請に応えるものとして、社会人再教育を含め、学際的教育研究の場としての大学院専攻を先端研独自で持つことは先端研発足時からの計画でもありましたが、後期博士課程大学院として発足することが決定し、1992年4月開設に向けて全力を挙げて準備を進めています。

過去4年余の経過を振り返ってみますと、幸いにして先端研はこれまで予想以上に順調に発展してこれたと思っています。これは、先端研の全構成員の努力と共に、先端研の意義を御理解いただいた東大各学部研究所ならびに学外の諸機関の御支援が有ったからでもあり、心から感謝しております。先端研は今後も学問の府たるべき大学として時流に流されず、しかも将来を見据え、社会に貢献することのできる研究センターを目指しますが、これからまだ多くの困難を迎えるものと予想しております。これを乗り越え、創設時の理想を実現することが先端研の使命といえます。

学内外、国内外の各位の一層の御支援、御鞭撻をお願いする次第です。

先端研

- 1.1 海洋バイオテクノロジー（東洋水産）寄付研究部門設置
- 1.22 『東大先端研—「世界」を狙う「日本」の頭脳』（那野比古著、NTT出版）刊行
- 2.14 第3回参与会
- 2.28 情報科学（CSK）寄付研究部門終了
- 3. 先端研ニュース第7号発行
- 3.15 『東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振』（先端科学技術研究センター編、三田出版会）刊行
- 3.31 柳田博明センター長退任
- 4.1 大須賀節雄センター長就任
- 4.5 第3回先端材料強度向上と評価シンポジウム
- 5.24 情報科学（CSK）寄付研究部門「人工知能講演会」（～25日）
- 7.9 東京大学評議会においてキャンパス問題の基本方針承認
- 7.10 第7回先端科学技術公開シンポジウム
- 8. 先端学際工学専攻設置構想の概要
- 9. 先端研ニュース第8号発行
- 9.1 量子材料（日立）寄付研究部門設置
- 10.7 第8回先端科学技術公開シンポジウム
- 10.25 先端研紀要第4巻発行
- 10.31 第3回オープンハウス（～11月1日）
- 11.15 第4回協議会
- 11.22 第9回先端科学技術公開シンポジウム
- 12.27 先端学際工学専攻発足が正式決定

社会

- 1.17 湾岸戦争勃発、2月28日停戦協定
- 1.24 多国籍軍への90億ドルの追加支援決定
- 1.30 日朝国交正常化交渉開始
- 2.9 美浜原発事故
- 3.10 新宿に新都庁舎完成
- 4.1 協和銀行と埼玉銀行が合併、協和埼玉銀行に（のちのあさひ銀行）
- 4.8 小沢一郎自民党幹事長が都知事選敗北で辞任
- 4.24 ペルシャ湾岸に海上自衛隊掃海部隊派遣決定
- 5.14 信楽高原鉄道で正面衝突事故、42人死亡
千代の富士引退表明
- 5.15 ジュリアナ東京オープン
- 5.21 インドのラジーヴ・ガンジー元首相、遊説中に暗殺
- 6.3 雲仙普賢岳で火砕流発生、34人死亡
- 6.17 南アフリカがアパルトヘイト政策終結を正式宣言
- 7.1 ワルシャワ条約機構解体
- 7.22 野村證券が大口顧客への損失補填で会長・副会長辞任
- 8.19 ソ連でクーデター、22日にエリツインが制圧
- 10.5 海部首相が自民党総裁選出馬断念を発表
- 10.14 証券金融不祥事の責任をとり橋本龍太郎蔵相辞任
- 11.5 宮沢喜一内閣発足
- 12.1 高知県知事に橋本大二郎当選、全国最年少の44歳
- 12.21 ソ連消滅、CIS設立

科学

- 2.13 富士通、超高速コンピュータ実現の鍵となるジョセフソン素子と半導体を一本化した複合素子の開発に成功と発表
- 3.12 がん研究所など日米共同研究グループ、大腸がんの発生を抑える「がん抑制遺伝子」を世界で初めて分離・解明に成功
- 4.20 岡山大の石津日出雄教授、指紋から男女を判定できる技術を開発
- 4.25 高速増殖炉原型炉「もんじゅ」完成
- 5.10 名古屋大の福井康雄助教授、高密度のガスの中で星が誕生する初期状態の観察に初めて成功
- 5.11 東京電力の燃料電池、世界最大の1万1000kw発電に成功
- 6.3 理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センター、世界初の人間の遺伝子を解読させる自動解析システムを完成と発表
- 7. 「しんかい6500」、三陸沖大地震の際にできたと見られる太平洋プレートの割れ目を日本海溝で発見
- 8.30 文部省宇宙科学研究所、太陽観測衛星「ソーラーA」の打ち上げ成功
- 9.12 日本の天文学グループ、銀河系の真ん中は球形ではなくピア樽形に近いと発表
- 9.16 野尻湖昆虫グループの研究でゲンゴロウの激減が判明
- 12.6 神岡鉱山地下1000mの東大宇宙線研究所素粒子観測装置「スーパーカミオカンデ」起工式
- 12.12 三菱化成生命科学研究所グループ、アルツハイマー病で決定的役割を果たす酵素を発見と発表

1992年（平成4年）

先端学際工学専攻のはじめての入学式（4月16日）。岡村弘之工学系研究科委員長を迎え、45名の新入生の門出を祝った



創立5周年記念シンポジウム（6月10日）には350人の聴衆がつめかけた。写真は先端研教授陣によるパネルディスカッション「先端科学技術の研究開発の戦略」の様子

1992年センター長あいさつ

センター長 大須賀 節雄

東京大学先端科学技術研究センター（略称「先端研」）は1987年に設立されて5年余が経過しました。先端研の設立には高等教育研究機関として将来の大学のあるべき姿を模索するという意味合いがあり、その実現のための基本理念として「学際性」、「国際性」、「公開性」、「流動性」を掲げてきました。先端研はこの理念のもとで、日本のセンターオブエクセレンスとして世界の情報発進基地たるべく努力してまいりました。

1992年4月現在4大部門（先端材料、先端デバイス、先端システム、社会科学技術相関）の18基幹分野、4客員分野に加え、7寄付研究部門が置かれ、積極的に研究活動を展開しています。数の上からは大きな変化がないように見えますが、上記の理念を確実に維持してゆくため、特に組織面に関わる流動性を維持するために、分野の見直しがすでに始まっています。先端研の使命は創造的な科学技術の芽を育ててゆくことにあり、これに相応しい組織を維持することは極めて重要なことと考えています。

また上記の理念を実現し、急速に変化しつつある社会の要請に応えるものとして、社会人再教育を含め、学際的教育研究の場としての大学院専攻を先端研独自で持つことは先端研発足時からの計画でもありましたが、後期博士課程大学院として、1992年4月に開設の運びとなりました。本年度は45名（うち外国人2名）の入学者を迎えました。これに伴い組織面で一部の移動がありました。

過去5年余の経過を振り返ってみますと、幸いにして先端研はこれまで予想以上に順調に発展してこられたと思っています。これは、先端研の全構成員の努力と共に、先端研の意義を御理解いただいた東大各学部研究所ならびに学外の諸機関の御支援が有ったからでもあり、心から感謝しております。先端研は今後も学問の府たるべき大学として時流に流されず、しかも将来を見据え、社会に貢献することのできる研究センターを目指しますが、これからまだ多くの困難を迎えるものと予想しております。これを乗り越え、創設時の理想を実現することが先端研の使命といえます。

学内外、国内外の各位の一層の御支援、御鞭撻をお願いする次第です。

先端研

2.10 第4回参与会

3. 先端研ニュース第9号発行

3.16 三井東圧化学寄付研究部門「未来化学シンポジウム」

3.31 未来化学（三井東圧化学）寄付研究部門終了
土田坦事務長退任

4.1 西口仁典事務長就任

4.6 平成4年度先端学際工学専攻入学試験

4.10 先端学際工学専攻設置

4.16 先端学際工学専攻入学式

6.10 第10回先端科学技術公開シンポジウム（創立5周年記念）

6.17 第4回先端材料強度向上と評価シンポジウム

7. 先端研ニュース第10号発行

8.19 「東京大学先端科学技術センターにおける大部門および分野の見直しに関する内規」改正

9.30 未来システム（三菱重工業）寄付研究部門終了
先端研紀要第5巻発行

10.1 第11回先端科学技術公開シンポジウム

10.1 第4回オープンハウス（～2日）

11.4 新日鉄寄付研究部門「未来材料シンポジウム」（～5日）

11.10 第5回協議会

12. 未来材料（新日鉄）寄付研究部門終了

12.15 電気通信（NTT）寄付研究部門シンポジウム（～16日）

12.31 電気通信（NTT）寄付研究部門終了

社会

1.7 プッシュミ大統領来日、夕食会で倒れる

1.9 国連カンボジア暫定行政機構の現地最高責任者に明石康国連事務次長

1.13 共和汚職事件、阿部文男逮捕

1.28 プッシュミ大統領が冷戦勝利宣言

2.7 EC、欧州連合条約調印

2.25 月例経済報告で景気の後退局面入りを認める

3. ユーゴスラビア分離解体

3. 国土庁発表の公示地価が17年ぶりに下落

3.14 新幹線「のぞみ」登場（東京－新大阪2時間半）

4.9 藤山一郎、国民栄誉賞受賞

4.25 尾崎豊が死去

4.28 アフガニスタンの社会主義体制崩壊

5.2 国家公務員の週休2日制開始

5.20 外国人登録法改正、指紋押捺廃止

5.22 日本新党結成、代表に細川護熙

5.27 長谷川町子死去、7月国民栄誉賞受賞

6. 地球環境サミット（リオデジャネイロ）

6.15 PKO協力法案成立

6.15 チャールズ英皇太子の愛人の存在暴露される
チェコスロバキア解体

7.25 バルセロナ・オリンピック開催

7.26 参院選、自民復調

8. 平均株価が6年ぶりに1万5千円割れ

8.4 松本清張死去

8.22 中国・韓国が国交樹立

9.17 自衛隊カンボジアに派遣

10.14 金丸信が佐川献金疑惑で議員辞職

10.17 米留学中の高校生がハロウィンパーティー先を間違え射殺される

10.23 天皇が中国をご訪問

11.3 米大統領選でビル・クリントン当選

11.27 貴花田と宮沢りえが婚約記者会見

12.18 韓国大統領選で金泳三が当選

科学

1.9 科学技術庁無機材質研究所、電子顕微鏡による酸素原子の世界初の直接観察に成功と発表

1.27 世界初の超伝導電磁推進実験船「ヤマト1」完成、着水

2.6 筑波大学学長にノーベル賞受賞者江崎玲於奈が就任

2.11 宇宙開発事業団、日本初の地球資源衛星「ふよう1号」打ち上げ成功

2.15 文部省宇宙科学研究所、日本版スペースシャトルのための「有翼飛翔体」大気圏再突入飛行実験に成功

2.28 東大病院の磯部光章医師が2種の抗体の短期間の注射で臓器移植の際の拒絶反応を抑える療法を発表

3.9 九州大の上野照剛教授ら、人間の脳内で発生する微弱磁場を計測し、脳の活動状況を簡単に詳しく把握するシステムを開発と発表

3.15 癌研究所のグループ、乳がんの原因遺伝子を発見と発表

3.25 顕微授精を行った夫婦の妊娠が日本で初めて確認される

4.5 東大医学部グループ、世界で初めて人工子宮でヤギの胎児を育て誕生させるのに成功

4.6 名古屋大の鈴森薫助教授ら、人間の受精卵の細胞遺伝子による性別判断実験に成功

6.15 筑波大研究グループ、人の遺伝子を組み込んだ高血圧症のマウスを作り、高血圧研究の動物モデルとすることに成功

7. 利根川進マサチューセッツ工科大教授ら、マウスを使つての脳の記憶・学習機能を担う遺伝子を発見と発表

7.15 ソニー、ハイビジョン高品位テレビ32型発売

9.12 NASAスペースシャトル「エンデバー」に毛利衛搭乗、日本人初の宇宙飛行士

10.20 日本IBM、低価格パソコンを発売、薄利多売時代へ

10.22 NTT、NTT基礎研究所山口栄一による重水素原子2個の常温核融合によるヘリウム4原子検出を発表

1993年（平成5年）



3月15日、先端研を視察する森山眞弓文部大臣（当時）。大須賀センター長、村上陽一郎、大越孝敬両教授らの説明を受けた

図書室新装オープンにともない、大須賀節雄センター長（写真右）が表札を揮毫した

1993年センター長あいさつ

センター長 村上 陽一郎

先端科学技術研究センターが発足して、7年目に入ったところです。この6年間を通じて、先端研は、新しいセンター・オヴ・エクセレンスを目指して、必死の努力を続けて参りました。それはちょうど揺籠期ともいべき時期であり、その間硬直化した大学の伝統のなかで、新しい試みを重ねて参りました。研究内容の流動性と、研究者の流動性を確保するために、分野の見直しを制度付けたり、あるいは、センターにおけるポストの任期化を図るなどの点は、そうした試みの一つとなりました。理工系の研究機関としては珍しく、人文系や社会科学系の分野や研究者を導入して、理工系内部における学際性を実現するのみならず、理工系と非理工系の間にも、学際的な研究を推進しようとしてきたことも、その一つに数えるべきかもしれません。さらには昨年から開設された先端学際工学専攻の博士課程のみの大学院も新しい試みと言えるでしょう。博士課程のみということは、そこへの応募者は、それまでに積み重ねて来た学問領域を、ある程度は変えることを暗々裏に要求されているわけですし、社会人枠が大きいことも特徴の一つです。

こうして先端研は、在来の大学の制度からは少しずつはみ出した実験を重ねてきたと言えますが、その実験が成功したかどうかを判断するには、まだ時間が足りないでしょう。それにしても、私共は、大学の改革が、大学の内部、外部の双方で、論じられるようになった最近の傾向を、少なくともある程度は先取りしながら、揺籠期を懸命に走ってきたことは確かだと自負しております。もとよりそれは、東京大学全体の学内共同研究センターとして、様々な部局から貴いご協力を戴いているからこそできたことであり、あるいは大学の外においても、文部省を初め、民官からのご支援とご理解がなければ、一步も走れなかったことと考えており、深く感謝しております。

人間の組織というものは、しかし、存在が継続すると、保全や維持の感覚を育てるものです。それが一概に悪いとは言えないかもしれませんが、先端研の過ごした過去の時間は、まだそのような時期に達していないほど短いものでもありましょう。しかし、ともすれば、時間の経過とともに現れ勝ちなそうした感覚を乗り越えつつ、さらに次の歩を進めて行きたい所存でございます。内外ともに、今後のさらなるご支援を賜りますようお願い致します。

先端研

- 1. 先端研ニュース第11号発行
- 1.28 第5回参学会

- 3. 2号館に講堂竣工
- 3.15 森山真弓文部大臣視察(～16日)
- 3.16 第12回先端科学技術公開シンポジウム
- 3.12 第4回先端研寄付研究部門懇談会
- 3.19 先端学際工学専攻93年度第二次募集入学試験合格者発表
- 3.31 大須賀節雄センター長退任
- 4. 先端研ニュース第12号発行
- 4.1 村上陽一郎センター長就任
- 4.3 第5回先端材料強度向上と評価シンポジウム
- 5.21 第13回先端科学技術公開シンポジウム

- 7.1 2号館図書閲覧室新装オープン
医学・生物学領域における生態温熱科学、および、先端的温熱画像計測法に関する国際シンポジウム(～3日)

- 9. 先端研ニュース第13号発行
- 9.20 コンピュータ・通信(NEC)寄付研究部門シンポジウム(～21日)
- 9.30 先端研紀要第6巻発行
コンピュータ・通信(NEC)寄付研究部門終了

- 10.7 第5回オープンハウス、第14回先端科学技術公開シンポジウム(～8日)
- 10.16 インドネシア教育文化大臣視察
- 11.9 第6回協議会

- 12.1 放送教育開発センター主催社会人技術者リフレッシュ教育実験
- 12.8 第15回先端科学技術公開シンポジウム

社会

- 1.3 米ロがSTART2に調印
- 1.27 曙が初の外国人横綱
- 1.30 服部良一死去、2月国民栄誉賞受賞

- 3.6 金丸信を脱税容疑で逮捕
- 3.12 北朝鮮がNPT脱退を宣言
- 3.27 江沢民が中国国家主席に

- 4.8 カンボジアで国連ボランティアの選挙監視員が射殺される
- 4.23 天皇陛下が沖縄をご訪問

- 5. 自衛隊モザンビーク派遣
- 5.4 カンボジアで文民警察官が襲撃され1人死亡
- 5.15 サッカー・Jリーグ誕生
- 6.29 ゼネコン汚職で仙台市長逮捕、さらに9月には宮城県知事、茨城県知事も逮捕
- 6.9 皇太子さまと小和田雅子さんご成婚
- 6.18 宮沢内閣不信任案可決、衆院解散
- 6.22 自民党羽田・小沢派の44人離党、23日に新生党結成
- 7.7 東京でサミット開催
- 7.12 北海道南西沖地震、死者行方不明者239人
- 7.16 横浜ランドマークタワー開業、日本一の高層ビル
- 7.18 衆院選、自民党下野、新党躍進
- 8.6 土井たか子が女性初の衆院議長に
- 8.9 細川護熙内閣発足
- 8.27 レインボーブリッジ開通

- 9.9 オスロ合意、PLO(パレスチナ解放機構)とイスラエルが相互承認

- 10.28 サッカー・ワールドカップのアジア最終予選で「ドーハの悲劇」
- 10.29 農水省、戦後最悪の不作と発表
- 11.1 欧州連合(EU)創設
- 11.11 食糧庁、外国産米90万トンの輸入を発表
- 12.8 屋久島、白神山地が世界自然遺産に、法隆寺地域の仏教建造物と姫路城が世界文化遺産に決定

科学

- 1.28 宮城県の白血病の小学生に骨髄バンクによる初の移植

- 2.8 東芝、世界最小の金属ギアの加工技術の開発に成功
- 2.18 文部省宇宙科学研究所、太陽発電衛星開発の基礎実験になる宇宙空間でのマイクロ波電送実験に成功
- 2.20 文部省宇宙科学研究所、X線天文衛星「あすか」打ち上げ
- 3.4 東大生産技術研究所、障害物を避け回転・静止が自由自在で50mまで潜水可能な海中ロボットを開発し公開
- 3.31 NTTと三重大学の共同研究グループ、直径10万分の1mm程度の炭素分子のかごに物質を閉じ込める「ナノカプセル」製作に成功と発表

- 4.1 城田安幸弘前大助教授、3000万年前の琥珀に埋まっているハエの化石から遺伝子を取り出すことに成功と発表

- 5.27 海洋科学技術センターが開発した無人深海探査機「かいこう」紀伊水道で初潜行試験

- 6.15 理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センターの周辺住民が遺伝子組み換え実験は危険と実験施設の使用差し止めなどを求めた訴訟で請求棄却判決

- 8.13 大和銀行、コスモ証券を救済合併
- 8. 大阪大理学部グループ、世界一細い人工チューブの合成に成功と発表
- 8.15 三菱化成生命科学研究所、アルツハイマー病による脳神経細胞の死を促進する酵素を発見、活性化する仕組みも解明と発表
- 8.28 横浜で国際植物科学会議開催
- 8.31 気象庁、1954年以降の冷夏と発表
- 9. 深海に生息する微生物を培養・研究する横須賀市の「海洋科学技術センター」完成
電気通信大電子情報学科のグループ、コンピュータ科学で最難問の「最大派閥問題」を高精度・高速で解く計算手順を開発と発表
- 10.13 東大や国立天文台などのグループ、太陽系惑星誕生解明の手がかりとなる原子惑星系円盤を発見と発表
- 11.19 環境基本法公布

- 12.8 日立製作所、電子1個で1ビットの情報を記憶する単一電子メモリの室温動作に初めて成功と発表

1994年（平成6年）

3月に先端学際工学専攻の2人の学生が修業年限の特例適用を受けて博士課程を修了し、学位授与を受けた。写真は学位記を掲げる2人の学生



1989年からのGC-5寄付研究部門の終了にともなって開催されたシンポジウム（1月18日）。GC-5とはゼネコン5社連合（大林組・鹿島建設・清水建設・大成建設・竹中工務店）のこと

1994年センター長あいさつ

センター長 村上 陽一郎

先端科学技術研究センターは、1987年に発足以来7年を経過し、8年目に入りました。この7年間に、様々な形で、内外から賜りました暖かいご支援、厳しいご批判、いずれも、感謝の他はありません。また、設立前に関係者の示された新しい試みとしての先端研の構想とその実現への強い意欲は、大学改革の流れが目立ってきた今日、一層重要な意味をもつものと私共は受け止めております。さらに、設立後センターに携わられた研究者、職員が一致して懸命の努力を重ねて来られたことに対しても、深い敬意と感謝を捧げたいと思っております。

大学に対する社会の関心は、ここ数年、稀にみる高まりを見せております。そのなかで、国立大学の研究環境も、関係者の努力もあって、少しずつ改善の方向に動き始めております。これに応じて、先にも触れましたように、大学もまた自己改革を始めています。それは、社会のなかに存在する大学として当然の責務であり、その改革は、大学人自ずからの既得権益の維持・発展にではなく、よりよい世界秩序、社会秩序の構築を目指さなければならないことは言うまでもありません。

しかし、それと同時に、大学とは、社会一般の価値観やその秩序を無条件に容認するものではなく、またそれに追従するものでもありません。常に、既存の価値を問い、社会が受け入れている価値に疑問を投げかけ、新しい価値の創造へとその疑問を昇華させるダイナミズムを持ち合わせていなければならないと思います。

先端研が、その設立から変わらずに掲げ続けて来ている、新しいものへの挑戦の姿勢も、そうした大学に備わる創造的なダイナミズムの一環として位置付けるべきものと言えます。「学際性」、「国際性」、「流動性」、「公開性」という先端研の四つの柱は、もちろん、先端研の設立の理念として、今もわれわれの根本にあります。しかし、それを単に墨守するのではなく、その理念自体を、われわれへの挑戦と受け止める必要があると考えております。それらの理念に、如何にわれわれ自身の価値を盛り込み、新しい提案を社会に差し戻していくか、そこに、先端研の真価が問われるものと思います。

研究においても、業務においても、「守り」ではなく、「攻め」の姿勢で、新たな途を切り開いていくこと、そこに、先端研が、今後一つのセンター・オブ・エクセレンスとしての資格を得るべき可能性があると信じます。その努力を怠らないことを誓い、内外の一層のご協力を、心からお願い申し上げる次第です。

先端研	社会	科学
1. 先端研ニュース第14号発行 1.18 都市開発工学（GC－5）寄付研究部門シンポジウム 2.10 第6回参与会 3. 先端学際工学専攻で初の学位授与（特例適用） 3.31 都市開発工学（GC－5）寄付研究部門終了 西口仁典事務長退任 4.1 第6回先端材料強度向上と評価シンポジウム 井出ノ上正己事務長就任 5. 先端研ニュース第15号発行 6.3 第16回先端科学技術公開シンポジウム 8.31 量子材料（日立製作所）寄付研究部門終了 9.28 先端研公式ウェブサイト開設 9.30 先端研紀要第7巻発行 10. 先端研ニュース第16号発行 10.7 第6回オープンハウス、第17回先端科学技術公開シンポジウム（～8日） 11.4 大越孝敬元センター長（東大名誉教授）死去 11.11 第7回協議会	2.3 細川首相が国民福祉税構想、翌日撤回 3.11 中村喜四郎前建設相が収賄容疑で逮捕 4.8 細川首相が辞意表明 4.26 中華航空機が名古屋空港で着陸失敗、264人死亡 4.28 羽田孜内閣発足 5.10 南アフリカでマンデラが初の黒人大統領就任 6.27 松本サリン事件、7人死亡 6.30 村山富市内閣発足 7.8 金日成北朝鮮主席死去 向井千秋が日本人初の女性宇宙飛行士に 7.20 村山首相が自衛隊合憲、日米安保堅持を表明 9. 自衛隊ザイル派遣 9.2 関西国際空港開港 9.3 社会党臨時党大会で基本方針転換決定 10.13 大江健三郎がノーベル文学賞受賞 10.21 米朝枠組み合意 11.9 消費税引き上げなどの税制改革法案可決 12.10 民社党、日本新党などが解党して新進党結成、党首に海部元首相 12.15 金閣寺など古都京都の文化財が世界遺産に決定 12.27 日銀総裁に松下康雄が就任 12.28 三陸はるか沖地震	1.25 新潟大医学部倫理委員会、森山美昭助教授ら申請の〈遺伝子治療〉の臨床応用を国内で初めて承認 1.29 名古屋大理学部の小沢智生助教授ら、マンモスの遺伝子解析に成功と発表 2.4 初の純国産大型ロケットH2、打ち上げ成功 2.28 東大原子核研究所、〈反物質〉を含みながら安定しているヘリウム原子を合成と発表 3. 東京都C型肝炎研究プロジェクトチーム、世界で初めてウイルスを電子顕微鏡撮影で確認に成功 3.1 超電導工学研究所、リニアモーターカーに使える磁力の強力な高温超電導体を開発と発表 4. 日米伊を中心とする共同研究グループ、物質の最小単位のクォーク最後の1種「トップクォーク」を確認と発表 4.21 名古屋大理学部の福井康雄教授ら、誕生直前の星の観測に成功と発表 5.26 日本学術会議、人工的な栄養補給中止など一歩踏み込んだ「尊厳死」をみとめる 8.7 アジア初の第10回国際エイズ会議が横浜で開催 8.28 宇宙開発事業団、技術試験衛星「きく6号」打ち上げ、31日エンジントラブルで静止軌道移行に失敗と発表 8.28 アジア初の国際移植学会世界会議が京都で開催

1995年（平成7年）



岐阜県との「研究推進覚書」調印式（7月26日）。
写真は握手する梶原拓岐阜県知事と岸輝雄センター長

オックスフォード大学で開催された第1回日英シンポジウム「科学と社会」（10月19・20日）。東大からは吉川弘之総長、先端研の岸センター長、柳田博明・児玉文雄・軽部征夫教授、武田展雄助教授らが参加した



1995年センター長あいさつ

センター長 岸 輝雄

萌芽的な先端研究を目指し、複数の学内部局、そして10余りの学外研究機関からの参加を得て発足した本センターもすでに8ヵ年を経過し、内部で定めた流動性のサイクルを考えると、次なる飛躍への時期を迎えています。この間、寄付部門の設定、社会人大学院の新設に加え、100名余りの海外からの客員教授を迎え、文系、理系融合の中でキャッチアップの時代から脱皮した科学・技術の研究のあり方に一定の役割を果たしてきました。

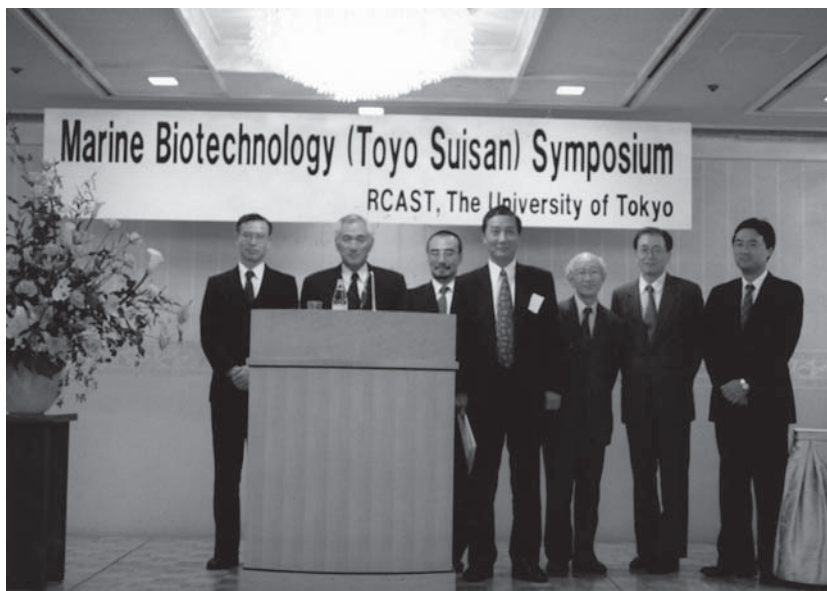
しかし、バブルの崩壊、そして製造業の停滞が続き、産業界も基礎研究まで手が廻らず、一方、政府の科学・技術への取り組みも縦割り行政の悪弊が残り、大学に関しても研究環境、大学院生の生活保障、留学生の学寮など急がねばならない施策実行に大きな遅れをとっております。それゆえ、大学自身が過去にとらわれず自ら変革し、積極的に科学・技術をリードしなければならない時期といえます。

先端研の存在意義は、小さいながらも縦割れ部局の壁を破り、ミニ総合大学の雰囲気の中で研究に専念することにあります。一方では大学の主体性を守りつつ、研究の推進を目的に産業界はもちろん、他省庁、地方自治体とも積極的に連携し、社会に開かれた研究の場を提供する必要があります。現在、大学にも大学人にも余裕のない日々が続いています。講義、実習指導、卒論指導から若干開放され、研究に専念できる場を作り上げ、また、科学・技術と社会、文化、芸術の関連を追求し、社会に公開し、話しかける大学の一翼を担う必要があります。

具体的には、生命科学と工学の境界、そして各研究分野への情報技術の融合などにシフトした研究に取り組む計画です。失敗を恐れずに、新しいことにチャレンジする研究者、大学院生の集るセンターとなることを目指したいものです。本センターより国際的に通用し、それでいて世界の時流に流されることのない好奇心の旺盛な若い研究者が育つことを願っています。

先端研	社会	科学
1. 先端研ニュース第17号発行 1.11 与謝野馨文部大臣視察 2.16 第7回参与会 3.29 先端学際工学専攻初の学位授与式、 22名の初の標準年限修了者 3.31 村上陽一郎センター長退任 4. 運営組織を「委員会」体制から「担当」体制に変更 4.1 先端科学技術センター職員の健康安全 管理細則制定 岸輝雄センター長就任 4.14 第18回先端科学技術公開シンポジ ウム 5.31 先端研ニュース第18号発行（ネッ トでの配信も開始） 7.26 岐阜県との「先端的な科学技術の 交流に関する研究推進覚書」調印式 7.31 先端研ニュース第19号発行 9.8 オランダ文化科学大臣視察 9.11 8、9号館解体工事（～10月21日） 9.30 先端研ニュース第20号発行 先端研紀要第8巻発行 10. 岐阜県に特別研究室設置 10.6 第7回オープンハウス、第19回先 端科学技術公開シンポジウム（～7日） 10.19 第1回日英シンポジウム「科学と 社会」（～20日） 11.15 先端研OB懇談会 11.21 第8回協議会 11.30 先端研ニュース第21号発行 12.31 海洋バイオテクノロジー（東洋水 産）寄付研究部門終了	1.17 阪神・淡路大震災、死者6434人 3.20 地下鉄サリン事件、22日にオウム 関連施設を一斉家宅搜索 3.28 東京銀行と三菱銀行が合併で合意 3.30 国松警察庁長官狙撃事件 4.9 都知事に青島幸男、大阪府知事に横 山ノックが当選 4.19 東京外国為替市場で1ドル79円75 銭の戦後最高値 4.26 青島都知事が世界都市博覧会の中 止方針を都議会議長に伝達 5.16 オウム真理教教祖麻原彰晃（本名・ 松本智津夫）逮捕 5.31 青島都知事が世界都市博の中止を 決断 6.9 国会で戦後50年決議可決 6.29 韓国でデパート崩落、512人死亡 7.1 PHSサービス開始 7.23 参院選、新進党躍進 7.30 八王子スーパー強盗事件 8.15 戦後50年にあたっての「村山首相 談話」を発表 8.24 ウィンドウズ95発売、11月日本語 版発売 9.4 沖縄で米兵少女暴行事件 9.8 日銀が公定歩合を過去最低の0.5%に 引き下げ 11.9 野茂英雄がメジャーリーグ新人王 に 12.6 山口敏夫元労相が背任容疑で逮捕 白川郷・五箇山の合掌造り集落が世界 遺産に決定	1.15 文部省宇宙科学研究所、回収型実 験衛星「エクスプレス」を打ち上げた が失敗 3.18 宇宙開発事業団、H2の3号機打ち 上げ、回収型実験衛星と静止気象衛星 も軌道投入成功 3.24 無人深海探査機「かいこう」、世界 最深マリアナ海溝のチャレンジャー海 淵海底に到達 3.28 セイコー電子工業などの研究グル ープ、生きている細胞の構造を数十ナ ノメートル単位で観察できる走査型近 視野原子間力顕微鏡を共同開発と発表 4.25 高レベル放射性廃棄物輸送船がむ つ小川原港沖に接岸 8.1 北大医学部附属病院で免疫不全の男 児に日本初の遺伝子治療開始 8.25 新型原発「新型転換炉（ATR）」の 実証炉、コスト高により建設計画中止 8.29 動力炉・核燃料開発事業団、高速 増殖原型炉「もんじゅ」発電・送電開 始 9.21 理化学研究所のグループ、ラット を使った顕微鏡写真で、運動の学習効 果が小脳に記憶されたことを示す脳神 経細胞の痕跡の確認に成功と発表 9.11 日本産科婦人科学会の倫理委員会、 「着床前診断」を事実上承認 11.8 科学技術基本法成立 12.8 高速増殖炉「もんじゅ」ナトリウ ム漏れ事故

1996年（平成8年）



1991年からの東洋水産寄付研究部門の終了に
ともなって開催されたシンポジウム



日本学術振興会のロンドンオフィスの第2代所長
に就任した白木靖寛教授（右）

1996年センター長あいさつ

センター長 岸 輝雄

文系、理系の融合までを含んだ学際的研究、細分化した現状から総合化した学問体系の構築を目的に設立されたのが先端科学技術研究センターである。現在、工学部、医学部、理学部、法学部、経済学部、教養学部、生産技術研究所の7部局の協力を得て、また多くの海外研究機関との連携のもとに、材料、デバイス、システムに関する萌芽的研究を追求している。また技術政策に加えて経済、文化と科学史とこれからの科学技術の関連、そして先端技術の知的所有権などを文系、理系が協力して進めることは、環境問題、人口問題、高齢化問題をかかえる次世代を見据えたグローバルな研究課題といえる。また、設立10カ年を契機に材料－デバイス－システムという物造りの科学技術に、情報、生命科学を大幅に取り入れるべく発展を目指している。一方で、科学技術が単に専門家集団の知的満足に終わることなく広く社会からの評価を受け入れ、共に発展させられるものにするのも本センターの使命と考えられる。新しい科学技術の芽を、そして社会に還元しうる科学技術の発展を、センターのモットーである流動性を活用して育成したいものである。

先端研	社会	科学
2.13 20、21、32号館取り壊し工事（～3月10日） 2.20 先端研ニュース第22号発行	1.11 橋本龍太郎内閣発足 若田光一がエンデバーに搭乗 1.27 フランスが6回目の地下核実験を実施 2. 自衛隊をگران高原派遣 2.10 豊浜トンネルで崩落事故 2.14 羽生善治が史上初の七冠 2.28 英国皇太子夫妻離婚合意	2.1 東大研究グループ、宇宙質量の90%を占めるとされる暗黒物質の分布が二重構造になっていると発表 2.9 筑波大の近藤都登教授ら国際研究グループ、基本粒子クオークがさらに小さな粒子で構成されている可能性があると発表 2.12 日本版スペースシャトル「ホープ」の開発実験機「ハイフレックス」、大気圏再突入に成功、着水後回収失敗 2.14 大阪大医学部、国内で初めて電気駆動の携帯型補助人工心臓を患者に装着 2.19 超電導工学研究所、強力な磁力を出す高温超電導体の人間浮上記録を10倍伸ばすのに成功 3.13 千葉県のかずさDNA研究所、光合成生物では世界で初めてランソウのDNAの全塩基配列の決定に成功と発表
3.1 柳田博明教授退官記念セミナー「テクノデモクラシーを目指して」 3.31 井出ノ上正己事務長退任 4.1 先端研懇談会（国際文化会館） 泉田千明事務長就任 4.30 先端研ニュース第23号発行	3.8 中国が台湾総統選挙をけん制して台湾沖でミサイル演習 3.14 薬害エイズ訴訟で製薬会社が責任認め、和解成立 4.1 東京三菱銀行発足 4.15 ミフォードがマツダの経営権取得	4.1 神岡鉱山地下1000mの東大宇宙線研究所宇宙素粒子観測装置「スーパーカミオカンデ」完成、本格観測開始 4.6 NECが国立大学・研究機関から最先端技術水準の学内通信網を受注と発表 4.23 道路交通情報通信システム、ドライバに供給開始。カーナビゲーション市場急拡大 5.15 気象庁が1995年までの20年間に全国の平均気温が0.5℃上昇と発表
5. 文部省「卓越した研究拠点（COE）」に認定 5.11 国際・産学共同研究センター（CCR）設立 7.26 NHK衛星第2で『ウィークエンド・スペシャル「立花隆・謎のキャンパスを行く～先端研探検～」』が放送される	5.10 1996年度予算案成立、住専処理の6850億円含む 5.31 2002年サッカー・ワールドカップの日韓共催を決定 6.13 福岡空港でガルーダインドネシア航空機が離陸失敗 7.13 堺市の小学校で発生したO-157の集団食中毒、女児死亡 7.20 アトランタ・オリンピック開催	6.13 理化学研究所のグループ、脳の側頭葉に視野から隠れた顔の部分の認識を補うしくみがあると発表 7.2 閣議、「科学技術基本計画」を決定、研究者の任期制の導入や兼業許可の緩和を取り入れる 埼玉医大の倫理委員会、性転換手術を正当な医療行為と認める 7.3 科学技術庁、脳研究に20年間で2兆円のプロジェクト構想をまとめ、理化学研究所内に脳科学総合研究センター設置決定 8.17 宇宙開発事業団、国産の主力大型ロケットH2の4号機で世界最大級の地球観測衛星「みどり」を打ち上げ 9.7 岡崎国立共同研究機構基礎生物研究所のグループ、大腸菌のDNAの塩基配列の40%を解読 9.11 気象庁オゾン層情報センターの調査で南極上空のオゾンホールが過去最大になっていることが判明 9.28 国会解散で臓器移植法案が廃案
8.12 先端研ニュース第24号発行 9.30 先端研紀要第9巻発行	8.4 新潟県巻町での住民投票で原発建設計画反対が多数 9.10 国連が包括的核実験禁止条約採択 9.17 ドジャースの野茂英雄がノーヒットノーラン達成 9.18 韓国東海岸で北朝鮮の潜水艦座礁、銃撃戦 9.24 テニス伊達公子が引退表明 9.28 民主党結成、代表に鳩山由紀夫、菅直人 10.20 衆院選、自民復調、新進後退 10.22 中堅ノンバンク、日榮ファイナンスが負債総額9900億円で倒産	10.1 新技術事業団と日本科学技術情報センターを「科学技術振興事業団」に統合 気象庁、47年ぶりに地震階級を変更
10.1 先端研OB会 10.4 第8回オープンハウス、学術講演会（～5日） 10.17 第2回日英シンポジウム「科学と社会」（～18日）	11.5 ミクリントン大統領再選 11.19 岡光序治厚生次官辞任、12月4日収賄容疑で逮捕 11.21 たまごっち発売 12.5 原爆ドームと厳島神社が世界遺産に決定 12.17 ベルー日本大使公邸人質事件発生	
12.8 先端研ニュース第25号発行		

1997年（平成9年）



十周年記念式典（5月22日）。小杉隆文部大臣、小林正彦東大副学長らが出席した



先端研と生産技術研究所との合同懇談会が通称「岸ガーデン」（キャンパス中庭）で行われた（9月17日）

1997年センター長あいさつ

センター長 二木 鋭雄

流動性、学際性、国際性、公開性の四つを理念の柱として、東京大学初の全学共同研究組織として発足した先端科学技術研究センターも、その設立以来10年が経過した。その後この先端研と同じ理念を掲げた組織が全国各地に設立されたことから、その理念の正しさ、重要性は明らかである。材料、デバイス、システムという従来の柱に、情報、生命、環境をさらに加え、これらの基礎、応用の基盤研究を進めていきたい。同時に理系、文系の融合をはかる先端研の責務として、研究というものの社会との関連、責任、倫理を考えながら、新たに研究戦略を追求し、さらにそこで得られる知的所有権の課題についても正面から取り組んでいく。そして学内との協同研究だけにとどまらず、学外、海外との協同研究を積極的に進めていきたい。学内の複数部局との連携を維持しつつも、先端研の独自性を求めていくことも重要と思われる。これまでと同様に、先端研は大胆に新しい試みに挑戦しながら、文系と理系とが一つになって、世界をリードする高等研究機関としての役割を果たしていきたい。

先端研

- 1.16 第8回参与会
1.29 第9回協議会
- 2.26 先端研、生研の工事が本格化
2.27 国際・産学共同研究センターの看板かけ、記念式典
- 3.14 駒場Ⅱキャンパス起工式
3.17 先端研ニュース第26号発行
3.21 アジア科学技術会議開催（日本経済新聞と共催）
3.31 岸輝雄センター長退任
4.1 組織編成のあり方見直し、大部門・分野の見直し 5大部門、21基幹研究分野、6客員分野となる。知的財産権大部門発足
4.1 二本鋭雄センター長就任
5. 「先端研10年の歩み」発行
5.22 設立10周年記念式典
- 7.10 アジア太平洋地域高等教育会議VIP来訪
7.30 高校生の科学教室を開催
9. 環境バイオテクノロジー（荏原製作所）寄付研究部門設置
9.10 駒場Ⅱキャンパス防災連絡協議会発足
9.17 先端研、生研の合同懇談会
9.24 町村文部大臣視察
9.30 先端研紀要第10巻発行
10. アジア・国際知的財産権（CSK）寄付研究部門設置
知的財産・技術インキュベーション（日本たばこ産業）寄付研究部門設置
10.1 先端研OB懇談会
- 11.6 先端研ニュース第27号発行
11.14 第9回オープンハウス、学術講演会（～15日）
11.20 国連大学長視察
- 12.1 国際シンポジウム「生体機能分子の設計・合成」（～2日）
12.9 学部長・研究所長合同会議
12.19 COEシンポジウム「生命と酸素」（～20日）

社会

- 1.2 ロシアのタンカー「ナホトカ号」が日本海に沈没、重油流出
- 2.12 北朝鮮の黄長燁労働党書記が韓国亡命
2.17 三井石炭鉱業、三池鉱業所の閉山を決定、1200人全員解雇
- 4.1 消費税を5%に引き上げ
4.22 ベルー日本大使公邸人質事件解決
- 6.17 臓器移植法成立
6.28 神戸児童殺傷事件で容疑者の中学生逮捕
- 7.1 香港がイギリスから中国に返還される
7.2 タイ・バツが暴落、金融危機に
7.11 出水市で大雨による土石流、21人死亡
- 8.31 元英皇太子妃ダイアナが交通事故死
- 9.8 橋本自民党総裁が無投票再選
9.11 内閣改造、ロッキード事件で有罪判決を受けた佐藤孝行が入閣したことに世論の批判、22日辞任
9.23 日米が新ガイドラインで合意
- 10.27 ニューヨーク株式市場が暴落、東京市場にも連鎖
- 11.8 北朝鮮から日本人妻里帰り第一陣
11.16 サッカー・ワールドカップのアジア地区予選、日本が初出場決定
11.17 ルクソールで観光客襲撃事件、日本人10人含む60人殺害
北海道拓殖銀行が道内の営業権を北洋銀行に譲渡
11.24 山一証券が自主廃業申請
11.27 日銀、過去最大の1兆2000億円を短期金融市場に供給、28日には3兆7000億円供給
12.9 介護保険法成立
12.11 京都議定書採択
12.16 テレビ東京の人気アニメ「ポケットモンスター」視聴中の小学生らが異常を訴え病院に運ばれる
12.18 韓国大統領選で金大中当選
東京湾アクアライン開通
12.21 米軍普天間飛行場代替海上ヘリポート建設の住民投票で反対多数
12.27 新進党解党

科学

- 1.30 MITの利根川進教授ら、動物実験で脳中枢神経ががん遺伝子で再生したと発表
2.12 文部省宇宙科学研究所、新型ロケットM5の1号機打ち上げ、電波天文衛星「はるか」を軌道投入
- 3.20 東工大資源科学研究所のグループ、生物の細胞の中には超微小の酵素が無数にあり、その回転でエネルギーが生まれているのを確認と発表
- 4.14 動燃の新型転換原型炉「ふげん」の重水精製装置建屋で放射能漏れ事故発生
- 5.11 IBMコンピュータ、チェス世界チャンピオンに史上初めて勝利
6.18 独占禁止法改正公布、持ち株会社設立原則自由化
6.30 大型地球観測衛星「みどり」が太陽電池パネルの異常により機能停止
7.6 金田康正東大教授ら、超並列スーパーコンピュータで円周率の515億3960万桁までの計算に成功
7.10 理化学研究所とドイツの研究所の共同研究グループ、90億光年はなれた宇宙に普通の光では見えない暗黒銀河団を発見したと発表
7.16 臓器移植法公布
7.28 科学技術会議がクローン技術の人間への応用を当面禁止するライフサイエンス基本計画を答申
7.29 東大宇宙線研究所などの研究チーム、ニュートリノに質量がある可能性が大きいことを確認したと発表
8.17 国際天文学連合総会、日本初開催
8.25 大学の教員等の任期に関する法律施行
- 10.1 理化学研究所脳科学総合研究センター開設
10.2 東大医科学研究所ヒトゲノム解析センターと神戸大医学部のグループ、ヒトとマウスで体内時計遺伝子を発見したと発表
10.4 東京農大などのグループ、精子不要の卵子生殖に初めて成功
10.8 兵庫県播磨市に建設された科学技術庁のシンクロトン放射光施設Spring-8試験運転開始
11.6 国立精神神経センターなどの研究グループ、老化現象抑制遺伝子を発見したと発表
11.19 土井隆雄ら搭乗のコロンビア打ち上げ成功、日本人初の宇宙遊泳
11.28 宇宙開発事業団、大型ロケットH2の6号機で技術試験衛星「おりひめ・ひこばし」とNASAの熱帯降雨観測衛星を軌道に投入
- 12.24 JR東海、リニアモーターカー実験走行で最終目標時速550キロを達成

1998年（平成10年）



第1期工事中の駒場Ⅱキャンパス



先端科学技術インキュベーションセンター
(CASTI) 設立記念祝賀会（8月3日）

1998年センター長あいさつ

センター長 二木 鋭雄

先端研はその設立以来常に先端的、先導的な研究をするべく大胆に挑戦してきているが、1997年4月、知的財産権大部門の設置に続き、1998年4月には駒場オープンラボラトリーを開設した。前者は知的財産権というものを正面から研究対象としてとりあげて研究するものとして、わが国で初めて設置されたものであり、その研究に加え、これに関して国際的な場で通用する人材の養成、および大学が持ち、またそこで生まれる知見、研究成果を社会に伝えることを目的としている。このために必要な組織として、長い間の準備作業、各方面の方々のご指導、ご支援のおかげで、1998年夏、株式会社先端科学技術インキュベーションセンター（CASTI）の設立にこぎつけた。駒場オープンラボラトリーは、東京大学内で行われる大型出資金によるプロジェクト研究を行う場を提供することを第一の目的とするが、それにとどまらず、学外とも、また国際的な共同研究を進める場としても充実させていきたい。これまでと同様に、先端的な世界をリードする中核的研究機関としての役割を果たしていきたい。

先端研

- 1.10 先端研ニュース第28号発行
- 1.31 第1期工事竣工
- 2.9 シンポジウム「国際情報化時代における「開発」と「文化」」(～10日)
- 2.17 第9回参学会
- 2.27 第10回協議会
- 3.31 泉田千明事務長退任
- 4.1 駒場オープンラボラトリー設立
田中義國事務長就任
- 5.20 先端研ニュース第29号発行
- 8.3 株式会社先端科学技術インキュベーションセンター (CASTI) 設立
- 9.28 ボッコロニ大学経済研究所および東アジア経済社会研究所との学術交換および協力に関する協定
- 10.1 先端研ニュース第30号発行
- 10.14 国際シンポジウム「バイオテクノロジーと知的財産権」(～15日)
- 10.16 第10回オープンハウス、第22回先端科学技術公開シンポジウム(～17日)
- 11. 実装工学 (IMSI) 寄付研究部門設置
- 12.1 先端研紀要第11巻ウェブ公開

社会

- 1.22 クリントン米大統領とホワイトハウス女性実習生との性的関係発覚、「不適切な関係」認める。10月弾劾訴追決議
- 1.26 大蔵省職員2人収賄容疑で逮捕、三塚蔵相引責辞任
- 2.2 郵便番号7桁制開始
- 2.7 長野冬季オリンピック開催
- 2.19 新井将敬衆院議員が自殺
- 3.4 山一證券の前会長、前社長ら逮捕
- 3.11 日銀営業局証券課長逮捕、松下康雄日銀総裁辞任
- 4.1 金融ビッグバン始動
- 4.5 明石海峡大橋開通
- 5.2 X-JAPANのhideが自殺
- 5.11 インドが24年ぶり核実験実施、5月にはパキスタンも
- 5.21 インドネシアのスハルト大統領辞任
- 5.25 天皇が英国をご訪問
- 5.27 若乃花横綱昇進、初の兄弟横綱
- 6.1 自社さ連立体制解消
- 6.5 長野市の病院で妻以外の卵子を使って体外受精・出産したことが判明
- 6.9 中央省庁等改革基本法成立
- 6.10 サッカー・ワールドカップ・フランス大会、日本は3連敗で敗退
- 6.12 経済企画庁、97年度GDPが戦後最悪のマイナス成長と発表
- 6.22 金融監督庁が大蔵省から分離
- 7.12 参院選、自民惨敗・民主躍進、橋本首相退陣表明
- 7.24 自民党総裁選、小渕恵三選出
- 7.25 和歌山毒物カレー事件、10月容疑者逮捕
- 7.25 ウィンドウズ98発売
- 7.30 小渕恵三内閣発足
- 8.29 iMAC発売開始
- 8.7 ケニア・タンザニアで米大使館同時爆破テロ、同月アフガニスタン・スーダンを米軍が報復攻撃
- 8.22 甲子園で松坂大輔が史上2度目の決勝戦ノーヒットノーラン
- 8.31 北朝鮮のミサイル「テポドン」が日本列島飛び越え太平洋着弾
- 9.8 マグワイアが大リーグ最多ホームラン記録更新
- 10.22 国鉄清算事業団解散、債務28兆円は国の一般会計に
- 10.23 日本長期信用銀行を一時国有化
- 10.29 中島洋次郎衆院議員を政党助成法違反で逮捕
- 11.15 沖縄県知事選で普天間基地代替基地県内建設派の稲嶺恵一が当選、大田昌秀は落選
- 11.19 自自連立合意
- 12.13 日本債権信用銀行を一時国有化
- 12.15 女性がインターネットを通じ宅配便で購入した青酸カリで自殺
- 12.16 米英がイラク空爆

科学

- 2.21 宇宙開発事業団、国産大型ロケットH2の5号機の打ち上げ失敗
- 7.4 宇宙科学研究所、日本初の火星探査機「のぞみ」の打ち上げに成功
- 7.5 石川県畜産総合センターと近畿大農学部畜産学研究室、世界初の体細胞クローン牛を誕生させることに成功
- 7.28 文部省の学術審議会、大学や文部省研究機関での人のクローン研究を全面禁止する指針を決定
- 8.6 東大医学部、ノシセプチンが記憶形成抑制物質であることを突き止め発表
- 9.1 東大と国立感染症研究所のグループ、C型肝炎ウイルスの発がん促進遺伝子を発見し動物実験で確認と発表
- 9.16 東大などのグループ、試験管で蛙の腎のもとを作りおたまじゃくしの中で機能させることに成功と発表
- 10.15 日欧の共同グループ、98年4月に確認したガンマ線バーストの発生は1億2000万光年のところにある極超新星の爆発のためであるとの証拠を発表
- 10.16 埼玉医科大で性同一性障害の女性患者に性転換手術を実施
- 11.10 日本原子力研究所の新型原子炉「高温工学試験研究炉」初めて臨界に
- 11.20 日米欧16カ国の共同プロジェクトである国際宇宙ステーション建設開始

1999年（平成11年）



第10回オープンハウスでの講演会風景。この年も例年同様多くの参加者を集めた（10月22・23日）



先端経済工学研究センターの看板。2004年まで掲げられていたもの

1999年センター長あいさつ

センター長 岡部 洋一

先端研は1987年の創立以来、流動性、国際性、学際性、公開性の4つのスローガンを掲げ、先端的、先導的な研究の遂行と併せて、新しいことをどんどん進めております。

創立時に開始した寄付研究部門の創設を最初に、1992年、社会人教育のための先端学際工学専攻（AIS）の設置、1996年、COEの指定ならびに国際・産学共同研究センター（CCR）の設置、1997年、知的財産権大部門の設置、1998年、駒場オープンラボラトリーおよび~~（株）~~先端科学技術インキュベーションセンター（CASTI）の設立といくつかのトライアルを行なってきました。そして本年度の1999年より、大幅な大部門の編成変えと経済工学研究センター（AEE）設置が決まり、また一層、新たな姿勢で新時代を築いていく心構えを致しております。

21世紀の大学のあり方を模索し、色々な試みをしようという心意気でありますので、是非とも暖かい目で見守っていただけますようお願い申し上げますとともに、よい試みと思われた場合には本学のみならず、他大学でも是非実施していただきたいと切に希望致します。

先端研

- 1.20 先端研ニュース第31号発行
- 2.1 第10回参学会
2.8 第11回協議会
2.22 実装工学国際フォーラム(～23日)
- 3.31 二木鋭雄センター長退任
- 4.1 22基幹分野、6客員分野、4寄付研究部門(全教官数52名)に改組
先端経済工学研究センター(AEE)設立、センター長に野口悠紀雄教授
岡部洋一センター長就任
- 6.10 新4号館完成、第3期工事竣工
- 9.20 先端研ニュース第32号発行
- 10.22 第11回オープンハウス、学術講演会(～23日)
10.25 第1回金融工学セミナー
11.17 先端研紀要第12巻ウェブ公開
- 12.3 「プロパテント時代における情報技術と知的財産権」シンポジウム
12.23 アジア・国際知的財産権(CSK)寄付研究部門シンポジウム

社会

- 1.1 欧州統一通貨ユーロの導入
1.14 自自連立内閣発足
- 2.1 テレビ・ニュース番組で所沢の野菜がダイオキシン濃度が高いとの報道
2.22 iモードサービス開始
2.28 日本初の脳死判定による臓器移植
3.24 コソボでNATO軍が空爆開始、6月停止
3.23 不審船に対し海上自衛隊が初の海上警備行動
3.27 日産・ルノー提携発表
4.1 日本石油と三菱石油が合併し新日本石油に
整理回収機構発足
4.11 東京都知事に石原慎太郎が当選
4.13 東京高検検事長が女性スキャンダルで辞職
4.20 米の高校で生徒が銃乱射、15名死亡
4.30 東京証券取引所の売買立会場が閉鎖
5.7 NATO軍がベオグラードの中国大使館を誤爆、3人死亡
6.1 ソニーがアイボ発売
6.28 山陽新幹線の福岡トンネルでコンクリート壁崩落
- 7.23 全日空機ハイジャック事件、機長殺害される
8.9 国旗・国歌法成立
8.14 玄倉川でキャンプ中に13人が流され死亡
9.8 池袋で通り魔事件
9.12 通信傍受法成立
9.12 改正住民基本台帳法成立
9.21 小渕恵三が自民党総裁選で無投票再選
9.26 民主党代表に鳩山由紀夫
9.29 下関で通り魔事件
9.30 東海村の核燃料加工工場で国内初の臨界事故
10.5 自自公連立内閣発足
10.7 一連の不祥事で神奈川県警本部長が辞任
11. 自衛隊を東ティモールに派遣
11.11 東証マザーズ開設
11.25 東京・文京区で近所の主婦が少女を殺害
- 12.1 「日光の社寺」が世界遺産に決定
12.14 民事再生法成立
12.21 強制わいせつ容疑事件により横山ノック大阪府知事が辞任
12.31 ロシアのエリツィン大統領辞任

科学

- 1.28 ハワイ島マウナケア山頂近くに建設した国立天文台の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」、天体の光を初受光
- 4.1 東大大学院理学系研究科に「ビッグバン宇宙国際研究センター」発足
4.14 JR東海などの走行試験でリニアモーターカー、時速552キロの世界記録
4.29 科学技術振興事業団とNEC、量子コンピュータ向け素子を開発したと発表
- 5.21 新潟の佐渡トキ保護センターでトキの人工孵化に国内で初めて成功
6.2 文部省高エネルギー加速器研究機構、粒子・反粒子ペアの崩壊を観測
6.28 文部省高エネルギー加速器研究機構、250キロ離れた目標にニュートリノを命中させることに成功
7.9 京都大学病院で世界初の生体ドミノ・分割肝移植はじまる
- 9.23 山形俊男東大教授ら、インド洋にもエルニーニョ現象があり世界各地の異常気象を引き起こしていると発表
- 10.14 宮下保治東大教授ら、記憶を思い出す前に入る脳内の記号を発見したと発表
11.8 東京農大のグループが人の細胞を牛の未受精卵に移植していたことが明らかに
11.15 H2ロケット8号機、打ち上げ後に制御不能になり爆破指示
12.8 科学技術庁・宇宙開発事業団が宇宙開発計画を大幅見直し
12.24 御子柴克彦東大教授ら科学技術振興事業団のグループが遺伝子操作でマウスの記憶力を高めることに成功したことが明らかに

2000年（平成12年）



この年、13号館が文化庁の登録有形文化財として登録されている。東大ではほかにも本郷キャンパスの安田講堂や正門、駒場1キャンパスの1号館なども同様の扱いを受けている



東大の定年延長問題について報じる朝日新聞（2000年9月15日朝刊）。囲み部分で、全学で唯一の反対にまわった組織の長として、岡部洋一センター長の「活性化のための条件をつけない定年延長には反対する。それがセンターの教官の大多数の意見だ」というコメントを紹介している

2000年センター長あいさつ

センター長 岡部 洋一

先端研は1987年の創立以来、流動性、国際性、学際性、公開性の4つのスローガンを掲げ、先端的、先導的な研究の遂行と併せて、新しいことをどんどん進めております。

創立時に開始した寄付研究部門の創設を最初に、1992年、社会人教育のための先端学際工学専攻（AIS）の設置、1996年、COEの指定ならびに国際・産学共同研究センター（CCR）の設置、1997年、知的財産権大部門の設置、1998年、駒場オープンラボラトリーおよび先端科学技術インキュベーションセンター（CASTI）の設立といくつものトライアルを行なってきました。そして1999年より、大幅な大部門の編成変えと経済工学研究センター（AEE）設置が決まり、また一層、新たな姿勢で新時代を築いていく心構えを致しております。

21世紀の大学のあり方を模索し、色々な試みをしようという心意気でありますので、是非とも暖かい目で見守っていただけますようお願い申し上げますとともに、よい試みと思われた場合には本学のみならず、他大学でも是非実施していただきたいと切に希望致します。

先端研

- 1.10 先端研ニュース第33号発行
- 2.15 第2回金融工学セミナー「金融工学と特許」
- 2.23 教授会において「総長との懇談」開催
3. アジア・国際知的財産権（CSK）寄付研究部門終了
- 3.31 田中義國事務長退任
- 4.1 前田高士事務長就任
- 4.18 参議院経済産業委員会議員団視察
- 6.1 第12回オープンハウス、学術講演会（～2日）
- 7.30 赤城サイエンスセミナー（～8月1日）
- 8.10 先端研ニュース第34号発行
9. 知的財産・技術インキュベーション（日本たばこ産業）寄付研究部門終了
- 9.7 国際シンポジウム「技術革新時代の知財・企業法務～IT・バイオテクノロジー発信地シアトルからの報告～」
- 9.12 「IT革命と産学連携の研究フォーラム」開催
- 9.26 先端研13号館が登録有形文化財として登録される
10. 先端医療・知的財産政策（第一製薬）寄付研究部門設置
- 10.11 猪瀬博元参与（東大名誉教授）死去
- 10.15 先端研ニュース第35号発行
- 10.17 タイ私立高等教育機関連盟調査団視察
- 10.27 第2回生命科学政策研究フォーラム（先端経済工学研究センター）
- 12.2 「知の対話—サイエンスジャーナリストのための公開講座」開催

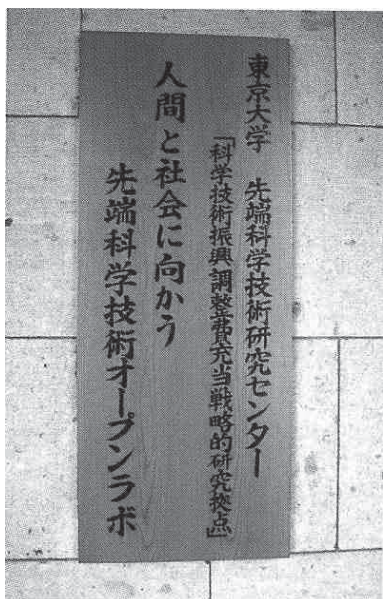
社会

- 1.1 コンピューター2000年問題で重大問題発生せず
- 1.28 新潟で不明少女が9年ぶりに発見
- 2.6 大阪府知事に太田房江が当選、全国初の女性知事
- 3.8 営団地下鉄日比谷線で脱線事故
- 3.18 台湾総統選で陳水扁当選、国民党支配の終焉
- 3.31 有珠山が噴火
- 4.1 小渕内閣が自由党との連立解消 介護保険制度発足
- 4.2 小渕首相が脳梗塞で緊急入院（5月14日死去）、4日内閣総辞職
- 4.3 自由党内の一部が政権残留を求め保守党結成
- 4.5 森喜朗内閣発足
- 日朝国交正常化交渉が7年ぶり再開
- 4.6 3月末での携帯電話の加入台数が5000万台を超え固定電話抜く
- 4.28 3月の完全失業率が4.9%に
- 5.3 福岡でバス乗っ取り、1人死亡
- 5.15 森首相が「日本は神の国」と発言
- 6.13 初の朝鮮半島南北首脳会談
- 6.25 衆院選、自民後退・民主躍進
- 7.1 金融監督庁と大蔵省金融企画局を統合した金融庁発足
- 7.6 雪印乳業の社長が食中毒菌汚染で引責辞任
- 7.12 そごうグループが倒産
- 7.19 2000円札発行
- 7.21 九州・沖縄サミット
- 7.25 超音速旅客機コンコルドが墜落
- 8.14 ロシア原子力潜水艦クルスクが沈没
- 8.18 三宅島で火山噴火、9月全島避難
- 9.16 シドニー・オリンピック開催
- 9.29 富士銀行、第一勧業銀行、日本興業銀行が合併し、みずほフィナンシャルグループに
- 10.1 DDI、KDI、日本移動通信が合併しKDDIに
- 10.10 大蔵省、国の貸借対照表を初めて公表、債務超過776兆円
- 10.15 長野県知事に田中康夫が当選
- 10.27 中川秀直官房長官がスキャンダルで辞任
- 11.5 東北旧石器文化研究所の副理事長が旧石器発見捏造を認める
- 11.7 米大統領選、開票で1ヶ月以上混乱、裁判所でジョージ・W・ブッシュの当選確定
- 11.19 プロ野球オリックスのイチロー外野手がメジャーリーグのマリナーズ移籍
- 11.20 加藤紘一元幹事長らが内閣不信任案において造反の動き（加藤の乱）
- 11.30 首里城など琉球王国時代の城が世界遺産に決定
- 12.31 世田谷一家惨殺事件

科学

- 2.2 科学技術会議、ヒトの万能細胞の研究を条件つきで認める報告案まとめる
- 2.10 文部省宇宙科学研究所のX線天文衛星を搭載したM5ロケット4号機、打ち上げ失敗
- 5.17 横須賀市の運輸省港湾技術研究所内に大規模波動地盤総合水路が完成
- 6.2 都立大研究グループ、アルツハイマー病発病に深く関与している原因酵素を特定したと発表
- 6.12 東大医学部講師ら、遺伝子を働きにくくして糖尿病や肥満を抑える動物実験に成功と発表
- 6.17 日米韓共同研究チーム、地中実験でニュートリノに質量があることを示唆する実験結果を発表
- 6.23 京都大チーム、酵母実験で染色体異常を防ぐタンパク質を確認と発表
- 7.20 米フェルミ国立加速器研究所、日米などの国際研究チームが最後の基本粒子タウニュートリノの存在を示す直接の証拠を観測と発表
- 7.31 文部省高エネルギー加速器研究機構を中心とする国際チーム、粒子と反粒子の基本的性質に差があるとの研究結果を発表
8. 文部省宇宙科学研究所、科学技術庁航空宇宙技術研究所、宇宙開発事業団の3機関が共通の運営本部を設け連携強化へ
- 8.3 白血病の原因となる異常なリボ核酸を壊す手法を東大教授らのグループが開発
- 8.18 農水省畜産試験場で国内初のクローン豚が誕生と発表
- 9.1 京大医学部の研究グループ、免疫抗体の際に「AID」とよばれる遺伝子がきわめて重要な役割を果たすことを発見と発表
- 9.6 国内製薬43社、ヒトゲノムの共同基礎研究のためコンソーシアム設立
- 9.8 井上和仁神奈川大助教授ら、地球上で最初に光合成を始めたのは約30億年前に誕生したと見られる紅色細菌であると発表
- 9.18 京大再生医科学研究所のグループ、サル体外受精卵から「万能細胞」を作り出すことに成功と発表
- 9.19 東京大学評議会、教官の定年を60歳から65歳に延長
- 9.21 米ロックフェラー大の若山照彦ら、6代目までクローンマウスを作ることに成功
- 10.10 白川英樹にノーベル化学賞
- 11.16 半田宏東工大教授ら、DNA情報をRNAにコピーする転写反応を一時停止させる物質と再開させる物質を発見と発表
- 11.30 クローン人間技術を禁止したヒトクローン技術規正法成立
12. BSデジタル放送開始
- 12.13 かずさDNA研究所、欧米の研究機関と共同で全植物の基本とされるシロイヌナズナのゲノムを完全解読と発表

2001年（平成13年）



4月に着任した福島智助教授の記者会見（2月19日）。岡部洋一センター長、児玉龍彦・橋本毅彦両教授も同席した

13号館に掲げられた「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」看板

2001年センター長あいさつ

センター長 南谷 崇

東京大学先端科学技術研究センター（先端研）は、新世紀がスタートした今年、設立15年目を迎えました。先端的科学技術分野における萌芽的、先導的研究と大学システム改革への果敢な挑戦を使命として1987年に設立されて以来、流動性、学際性、国際性、公開性という4つの基本理念を掲げ、そのインプリメンテーションのためにこれまで様々な先駆的試みを展開してきました。

教授会の全構成員に対する10年任期の設定、文理融合を含む学際領域研究の推進、我が国初の寄付研究部門の設立、社会人にも門戸を開いた博士課程大学院（先端学際工学専攻）の設置、国際・産学共同研究センターの設立、知的財産権大部門の設置、東京大学の認定TLOとしての株式会社CASTIの設立、先端経済工学研究センターの設立など、そのひとつひとつが21世紀のあるべき大学の姿を描き出そうと模索する先端研からの提案と実践です。これらの先駆的試みはこれまで東京大学のみならず我が国の大学に少なからぬ影響を与えてきました。

世界はこの10年で大きく変化しました。未曾有の長期不況と危機に直面する我が国において、あらゆるシステムが問い直される中で、大学システムもまた大きな変革を求められています。

先端研は、その第2ラウンド半ばにさしかかった今、我が国の国際競争力と成長力の源泉たるべき先端科学技術の研究推進とその成果の社会還元へ向けて新たなチャレンジを開始しようとしています。そのための戦略的拠点組織として、2001年4月に先端科学技術エンタープライズ株式会社（ASTEC）を設立しました。これは、これまでの「大学技術移転」をさらに一歩進め、研究成果を活用した起業を支援するためのリエゾン機能、インキュベーション機能、ファンディング機能を実現するとともに、産学の人材交流、研究者の流動化促進をも狙いとする新しい仕組みで、産業競争力強化への貢献を責務の一つとする大学からの新しい産学連携モデルの提案です。

先端研は、この新しい産学連携モデルの具体化と実践を通じて、社会から歓迎され、産業創成に貢献し、研究者自身も報われる最高水準の研究環境を実現する新しい大学システムの姿を描き出そうとしています。関係各位のご協力とご支援をお願いします。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第36号発行（リニューアル）
- 1.12 中国国家知識産権局調査団視察
- 1.19 笹川科学技術政策担当大臣視察
- 3.19 シンポジウム「21世紀型産学連携システムへの提言」
- 3.21 特別講演「アメリカ特許法の現在と将来」
- 3.22 シンポジウム「新世紀の知的財産権」
- 3.31 岡部洋一センター長退任
- 4.1 先端研ニュース第37号発行
南谷崇センター長就任
- 4.23 先端科学技術エンタープライズ株式会社（ASTEC）設立
- 6. 環境バイオテクノロジー（荏原製作所）寄付研究部門終了
- 6.7 第13回オープンハウス、学術講演会（～8日）
- 7.1 先端研ニュース第38号発行
- 7.7 バリアフリー部門福島助教授がニューヨークタイムズ紙に紹介される
- 7.25 第2回「知の対話—サイエンスジャーナリストのための公開講座」開催
- 8. 科学技術振興調整費「戦略的研究拠点育成」計画の対象研究機関に選定、「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」計画開始
- 10. 教養学部学生のための先端科学技術研究入門コース開講
- 10.1 先端研ニュース第39号発行
- 11. 先端テクノロジービジネスセンター（AcTeB）設立
- 11.20 「先端科学技術と産学連携」シンポジウム
- 11.23 知的財産・産学連携ワークショップ（～24日）

社会

- 1.6 中央省庁再編、1府12省庁に
- 1.6 仙台で筋弛緩剤を投与した看護師を逮捕
- 1.26 新大久保駅で線路に落ちた男性を助けようとした2人が死亡
- 2.9 ハワイで実習船えひめ丸が米原潜と衝突して沈没
- 3.1 村上正邦元労相をKSDにかかわる受託収賄容疑で逮捕
- 4.3 「つくる会」歴史教科書が検定合格
- 4.26 小泉純一郎内閣発足
- 5.1 金正男とみられる男性を身柄拘束、4日に中国へ強制退去
- 5.8 青森で武富士強盗殺人放火事件
- 6.1 ネパールで国王ら8人が殺害される
- 6.8 大阪池田小児童殺傷事件
- 7.21 明石で歩道橋将棋倒し事故、11人死亡
- 7.29 参院選、与党が過半数回復
- 8.13 小泉首相が靖国参拝
- 9.1 歌舞伎町でビル火災が発生、44人死亡
- 9.10 国内初の狂牛病事例発見
- 9.11 ニューヨークなどで同時多発テロ
- 9.19 小泉首相が米軍の後方支援を表明、11月インド洋派遣
- 10.5 アメリカで炭疽菌により5人死亡
- 10.7 米、アフガニスタンに空爆開始
- 12.1 皇太子ご夫妻に愛子さまご誕生
- 12.22 北朝鮮の不審船を海上保安庁が追跡、沈没

科学

- 1.6 中央省庁再編に伴い、資源エネルギー庁から原子力安全・保安院が独立
- 2. 理化学研究所の研究チームがマウスの遺伝子1万2400個の解読を終えたと発表
- 3.1 秋光純青山学院大教授らが金属化合物としては最高温度のマイナス234度で超電導になる物質を発見したと発表
- 3.23 ロシアの宇宙ステーション「ミール」が無事南太平洋上に落下
- 5. カシオがワープロの生産販売撤退、国内メーカーはシャープのみ
- 5.18 諏訪マタニティクリニックで姉夫婦の子供を妹が代理出産
- 6.6 クローン技術規正法施行
- 6.15 フロン回収・破壊法成立
- 7.10 高エネルギー加速器研究機構と東大宇宙線研究所の観測装置「スーパーカミオカンデ」が、ニュートリノに質量がある確率は97%以上と発表
- 8. ミルレーセントテクノロジーズ社ベル研究所のグループが「フラーレン」でマイナス156での超伝導を実現と発表
- 8. NECがカーボンナノチューブを利用した小型燃料電池を開発したと発表
- 8.9 環境省が大都市で気温が30度以上になった時間が過去20年間で倍増したとする報告書を発表
- 8.29 宇宙開発事業団の大型ロケット「H2A」1号機打ち上げ成功
- 10. NTTドコモが次世代携帯電話サービス「FOMA」を開始
- 10. 野依良治にノーベル化学賞
- 11. 米バイオベンチャー企業ACTがヒトのクローン胚作製に成功
- 11.7 中部電力浜岡原発で配管破断と漏水
- 11.12 スーパーカミオカンデで内部の光センサーが多数破損
- 11.19 しし座流星群が大出現
- 12.4 東海発電所の解体工事始める、商業原発初の解体

2002年（平成14年）



「こんな機械があったらいいな」シンポジウム
(6月7日)



まちづくり学校。真剣な表情で地図をのぞきこむ学生たち

2002年センター長あいさつ

センター長 南谷 崇

先端科学技術研究センター（先端研）は、流動性、学際性、国際性、公開性という4つの基本理念を掲げ、先端科学技術分野の開拓と大学システム改革への果敢な挑戦を使命として様々な先駆的試みを展開してきましたが、設立15周年を迎えた今年、新たな飛躍へのステップを踏み出しました。

先端研は昨年、総合科学技術会議の決定に基づいて「優れた成果を生み出す研究開発システム」を実現するために科学技術振興調整費を充当して2001年度から実施されることとなった「戦略的研究拠点育成」計画の対象研究機関に選ばれました。これは俗にスーパーCOE計画とも呼ばれ、2006年3月までの5ヵ年計画で国際的に魅力ある卓越した研究拠点の創出へ向けて、研究システムの改革モデルを提示しようとするものです。

この組織改革構想の名称である「人間と社会に向う先端科学技術オープンラボ」は、人間本位で社会と相互作用するダイナミックな科学技術領域の開拓を目指す先端研の研究戦略と、それを効果的に推進する弾力的で機動性のある新しい先端研運営戦略を表現したものです。将来に渡って国際競争力を持ち世界をリードするCenter of Excellenceであり続けるための先端研の大改革であると同時に、2年後に法人化が予定される東京大学のあるべき姿のひとつを示す制度改革の実験でもあります。

この改革構想は以下の5つの目標を掲げています。

- 1) 科学技術基本計画重点分野の先に展開する新しい先導的研究領域の開拓
- 2) 既成の学問分野と組織の枠を越えた弾力的で機動性のある研究組織形態への転換
- 3) 国内外の第一級の研究者を惹き付ける高度な研究環境の構築
- 4) 研究者の流動化と国際化を実質的に促進する人事・評価制度の設計と実現
- 5) 研究成果を社会へ還元する社会連携/産学連携の仕組みの設計と実現

研究は人であり、研究組織の活性化には人材の流動性が最も重要な要素の一つです。国際競争力のある卓越した研究拠点には最適な分野に最適な人材を最適なタイミングで迎えることのできるシステムが必要です。先端研はそのような「活力ある大学経営形態」の実現を目指して、研究開発システム改革の提案と実践に取り組んでいます。関係各位の御支援と御協力をお願いします。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第40号発行
3. AcTeB Review 創刊
- 3.1 第1期先端まちづくり学校（～3日）、以後第10期（2005年）まで継続
- 3.23 知的財産マネジメント研究会
- 3.31 前田高土事務長退任
4. 競争的資金による特任教員／研究員を含むオープンラボプロジェクト開始
- 4.1 先端研ニュース第41号発行
佐々木勉事務長就任
- 5.1 ナノエレクトロニクス連携研究センター（NCRC）設立
- 5.20 第6回アジア科学技術会議
- 6.6 第14回オープンハウス、学術講演会（～7日）
- 6.8 「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」研究公開セミナー開催
- 6.6 国際・産学共同研究センター II 期棟完成記念産学連携シンポジウム
7. ASTEC ファンド募集終了
- 7.1 先端研ニュース第43号発行(42号欠番)
- 7.4 特別講演会
- 10.1 先端研ニュース第44号発行
- 10.10 第1回KCCCシンポジウム
- 10.31 「国際競争力ある大学研究システムを考える」シンポジウム
- 11.1 「新たな研究開発への取り組み」
- 11.24 ナノエレクトロニクス連携研究センター発足記念シンポジウム—ナノテクノロジーが開く次世代情報通信素子技術基盤—
- 11.28 「知財におけるグローバルコンピタンスの獲得を目指して～知価経済で必要とされる人材育成～」(～29日)
12. 先端研 Watcher 創刊
- 12.6 分子シンクロナイゼーション手法による機能性核酸の構築

社会

- 1.1 EU12カ国でユーロの現金流通開始
- 1.21 アフガン復興支援国際会議を東京で開催
- 1.29 アフガン復興支援国際会議へのNGO団体の参加問題で国会混乱、田中真紀子外相と川島裕外務次官更迭、後任外相に川口順子環境相
- 1.29 ブッシュ米大統領がイラク、イラン、北朝鮮を悪の枢軸と名指し
- 2.8 ソルトレークシティー・オリンピック開催
- 2.15 自衛隊を東ティモールPKO派遣決定、過去最大規模
- 3.16 辻元清美衆院議員が秘書給与流用で議員辞職、翌年逮捕
- 4.1 みずほ銀行営業開始、システム障害で混乱
- 4.9 加藤紘一元自民党幹事長が政治資金流用などで議員辞職
- 4.21 小泉首相が2度目の靖国参拝
- 5.8 瀋陽総領事館北朝鮮人亡命者駆け込み事件
- 5.14 佐藤優外務省分析官を背任容疑で逮捕
- 5.20 東ティモール独立
- 5.28 経団連と日経連が合併、日本経団連に
- 5.31 日韓共催サッカー・ワールドカップ、初めて予選一次リーグを突破
- 6.19 鈴木宗男衆院議員逮捕
- 8.5 住民基本台帳ネットが稼働、6自治体が参加見送り
- 8.9 田中真紀子前外相が秘書給与流用疑惑で議員辞職
- 9.1 県議会の不信任で失職した田中長野県知事再任
- 9.17 小泉首相が訪朝、日朝平壤宣言、10月15日拉致被害者5人帰国
- 10.12 バリ島で爆弾テロ、202人死亡
- 10.23 モスクワで劇場占拠事件、当局の強行突入で100人以上死亡
- 10.25 民主党の石井紘基衆院議員が右翼団体代表に刺殺される
- 12.3 鳩山由紀夫民主党代表が党内混乱で辞任、後任に菅直人
- 12.19 韓国大統領選で盧武鉉当選
松井秀喜外野手（巨人）がメジャーリーグのヤンキース移籍

科学

- 1.7 地球から約83万キロ離れた地点を小惑星が時速11万キロのスピードで通過
- 1.28 フランクリン賞に物理学部門で飯島澄男氏、工学部門で中村修二氏
- 2.4 「H2A」2号機の打ち上げ成功
- 3.6 富士通が世界最高性能のスカラ型スーパーコンピュータを開発
- 3.15 宇宙開発事業団、日本原子力研究所、海洋科学技術センターが開発していたスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」が完成、披露式典
4. 日本再生医療学会発足
- 4.5 スイスの農業会社と米中の合同研究チームが稲の全遺伝情報の解読にそれぞれ成功
- 4.23 NASAが宇宙の年齢は130億～140億歳の可能性が高いと発表
- 5.22 土壌汚染防止法が成立
- 6.19 ハーバード大日本人元研究員が産業スパイ法違反で逮捕
- 7.19 東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法が成立
- 8.29 東京電力の原発で自主点検の際に部品のひび割れを隠したり点検記録を改ざんしたりしていた疑いがあると原子力安全・保安院が発表、内部告発がきっかけ
9. 森下竜一大阪大助教授らが設立した「アンジェスMG」が東証マザーズに上場はたす
- 9.10 「H2A」3号機の打ち上げ成功
- 10.8 ノーベル物理学賞に小柴昌俊氏、化学賞に田中耕一氏、ダブル受賞は初めて
- 10.18 宇宙往還機の実験機が飛行実験に成功
11. 文部省宇宙開発委員会がH2Aの製造と運用を宇宙開発事業団から三菱重工業に移管することを決定
11. ラムサール条約に宮島沼と藤前干潟を新たに登録
- 12.6 東京大学情報基盤センターと日立製作所の共同チームが円周率計算の世界記録（1兆2411億桁）
- 12.14 「H2A」4号機の打ち上げ成功

2003年（平成15年）



先端研フォーラムで立ち並ぶ各研究室のブース。38もの研究室が参加した

ホテルオークラで開催された先端研フォーラムでのセミナー（10月30・31日）。来場者は2日間でのべ1700名に達した

2003年センター長あいさつ

センター長 南谷 崇

先端科学技術研究センター（先端研）は1987年に「学際性、流動性、国際性、公開性を基本としつつ、学内各部門との相互協力のもとに先端科学技術及びその関連分野の研究・教育を行う」ことを目的として設立されました。それ以来これまで、文理の枠を超えた研究活動、高い人事流動性などの特色に加えて、様々な研究システム改革の先駆けとして全国的な役割を果たし、世界最高水準の研究成果を生み出してきました。これらの実績を踏まえ、科学技術・学術審議会学術分科会の下に設置された国立大学附置研究所等特別委員会が今年4月に出した最終報告では、「先端研は重要な課題について十分評価できる活動を展開しており、附置研究所と比べて遜色ない」と特記されました。

現在、科学技術振興調整費による「戦略的研究拠点」育成事業の対象として選ばれた最初の研究機関（いわゆるスーパーCOE）として、2004年4月の法人化を跨いだ2001年から2006年3月までの5ヵ年計画で、国際競争力のある卓越した研究拠点を目指した新しい構想の組織運営改革に取り組んでいるところです。

来年4月に予定される東京大学法人化は明治の創立期、戦後の改革期に次ぐ第3の展開期と言われています。この歴史的な変革期を迎えるにあたり、先端研は「学術の進展と社会の変化から生じる新たな挑戦課題に既存の枠組みを超えて迅速に対応し、人間と社会に向かう先端科学技術領域の開拓を目指す国際的研究拠点として、また、科学技術研究システムの改革モデルを継続的に提案・実証していく先駆けとして、世界に類のない文理融合の高等研究所への発展を目指すべきである」と決意しました。これは先端研でこれまで重ねてきた議論から得られたひとつの結論です。

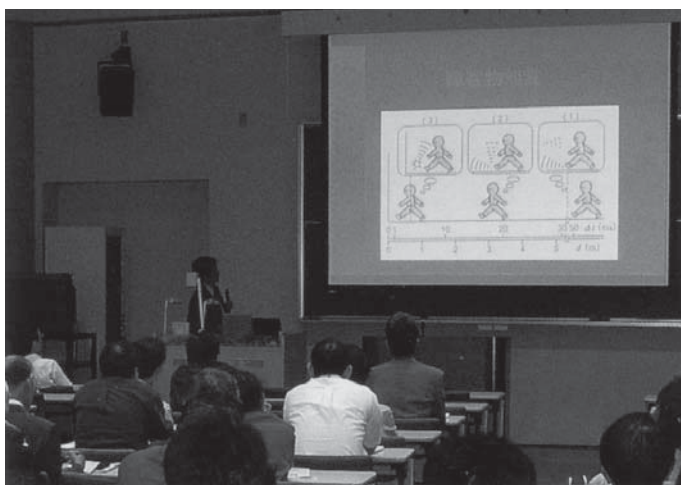
「非公務員型」法人化は、大学が社会から付託された責務を果たし、世界のマーケットから評価を受けようとしたときにこれまでしばしば障害となっていた制約を取り除き、国際的な競争力をもつ大学システムへ改革する絶好のチャンスです。先端研はその目指すべき姿の実現に向けて、

- 1）従来の大部門制を廃止し、機動的な研究者クラスターを基本とする柔軟な組織形態
- 2）教授会自治から、外部視点を導入して選考するセンター長の責任による組織運営
- 3）「契約による雇用」を基本とした国際競争力を持つ教員人事評価制度

などを柱とした新構想の研究組織へ改組することを計画しています。世界の優れた研究者にとって魅力的であり、卓越した研究成果と人材を生み出す活力ある研究環境を実現するために必要な制度設計作業を着実に進めたいと思います。関係各位の御支援、御協力をお願いします。

先端研	社会	科学
1.1 先端研ニュース第45号発行	1.14 小泉首相が3度目の靖国参拝 1.18 韓国ソウルで地下鉄火災 1.20 横綱貴乃花が引退 1.29 朝青龍が横綱昇進 2.18 北京の日本人学校に脱北者	2.1 ミススペースシャトル「コロンビア」 空中分解事故 2.14 クローン羊「ドリー」が6歳で死亡 2.28 国立科学博物館と東京大、インド ネシアの国際共同チームがジャワ原人 が現代人に進化した可能性を否定する 化石を発見したと発表 3 ユビキタスIDセンター発足、リーダ ーは坂村健東大教授 3.16 第3回世界水フォーラムが京都で開 催される 3.28 「H2A」5号機の打ち上げ成功、日 本初の情報収集衛星 4.14 日米欧などの国際チームが人間の 全遺伝情報を解読 4.15 東京電力の全原発17基が停止、電 力供給止まる 5 京都大がヒトES細胞の作製に国内初 の成功 5.9 文部科学省宇宙科学研究所が衛星 「はやぶさ」を打ち上げ 5.22 気象衛星「ひまわり5号」が引退、 米国衛星を当面借用へ 6.9 産業技術総合研究所が2000万年で誤 差が1秒以下の世界最高精度の原子時計 を開発と発表 7.1 大阪大核物理研究センターと日本原 子力研究所などの研究グループが基本 粒子「クォーク」5個で構成される新た な素粒子を発見したと発表 7.12 第44回国際数学オリンピックが初 めて日本で開催 8 ヨーロッパで異常高温、フランスでは 猛暑による死者が1万人超える 8.12 文部科学省高エネルギー加速器研 究機構などの研究グループが素粒子の 働きを説明する「標準理論」で理解で きない現象を捉えたと発表 8.27 火星が6万年ぶりの大接近 9.2 日立製作所が世界最小の新型ICチップを開発 9.12 ミマサチューセッツ工科大の研究 チームが絶対温度約20億分の1度とい う世界で最も低い温度まで気体を冷却 することに成功と発表 10 国立がんセンターに「がん予防・検 診研究センター」発足 10.1 首都圏でディーゼル車規制が始ま る 10.1 宇宙開発事業団、文部省宇宙科学 研究所、航空宇宙技術研究所が統合し た独立行政法人「宇宙航空研究開発機 構」発足 10.6 豊田自動織機が白色有機EL光源を 世界で初めて開発 10.10 日本のトキが絶滅 11 法務省が代理出産で生まれた双子男 児の出生届けを受理せず 11.29 「H2A」6号機の打ち上げ失敗 12.9 日本初の火星探査機「のぞみ」が 火星の周回軌道に投入できないことか ら探査断念
2.3 バリアフリーセミナー	3.20 日銀総裁に福井俊彦 3.1 大和銀行とあさひ銀行が合併してり そな銀行発足 3.12 WHOがSARSの集団発生を警告 3.20 米軍がイラク武力攻撃開始、4月9 日にバグダッド陥落 4.1 日本郵政公社発足	
3.12 先端まちづくり学校シンポジウム	5.16 青森の木村守男知事がセクハラ報 道で辞任 5.17 りそな銀行に2兆円公的資金の注入 決定 5.23 個人情報保護関連法が成立	
4.1 先端研ニュース第46号発行	6 小泉首相が国と地方の「三位一体改 革」決定 6.6 有事法制関連三法成立 7.1 長崎で少年が幼稚園児を屋上から突 き落とし補導される 7.26 イラク復興支援特別措置法成立	
6.5 キャンパス公開（～6日） 6.25 「システム生物医学の創成」シンポ ジウム 7.1 先端研ニュース第47号発行	8.19 イラクの国連事務所で爆弾テロ	
	9.20 自民党総裁選で小泉純一郎が再選、 幹事長に安倍晋三を登用 9.26 自由党と民主党が合併	
10. AcTeB Review 終刊 10.1 先端研ニュース第48号発行 10.30 先端研フォーラム（～31日）	10.15 中国が有人宇宙船飛行に成功 10.24 藤井治芳道路公団総裁を国土交通 相が解任	
	11.9 衆院選、自民後退・民主躍進 11.29 日本人外交官2人がイラクで殺害 される 12.3 米軍がフセイン元イラク大統領を 拘束 12.9 自衛隊のイラク派遣決定 12.24 BSE（牛海綿状脳症）問題で米国 産牛肉輸入停止	

2004年（平成16年）



キャンパス公開での伊福部達教授の講演（6月3・4日）



興和基金・システム生物医学分野のパンフレット。児玉龍彦特任教授が同分野の「基金教授」に選ばれた（5月着任）

2004年所長あいさつ

所長 橋本 和仁

1987年に学内共同利用施設として設立された先端科学技術研究センター（先端研）は、本年4月1日の東京大学法人の発足に当たって、本学の第11番目の附置研究所として正式に認可され、また同時にこれまで緊密な関係にあった先端経済工学研究センターを合併し、東京大学における独立部局として新しい一歩を踏み出しました。この組織変更に伴い、本来は名称を「先端科学技術研究所」と変更すべきですが、我々先端研教職員は、あえてこれまでどおり「先端科学技術研究センター」を正式組織名として継続使用することを選択しました。それは先端研設立の際の理念・モットーである「学際性」、「流動性」、「国際性」、「公開性」を基礎としてこれまでの活動が、学内外から高く評価され、特に社会に開かれた大学組織として、先端科学技術研究センターという名称は世の中で広く認知されているものと確信しているからであり、さらに以前先端研に所属し、活動の主体としてご活躍くださった諸先輩方に敬意を表する意味も含んでいます。

設立以来先端研では、民間寄付金による客員教官制度（1987年）や競争的資金による特任教員制度（2002年）など新しい人事制度の提案と導入を積極的に行ってきました。さらに本年5月には寄付基金講座を開設し、原則として運営費交付金（国費）によって雇用される「教授」と同等の権利と義務を持つことを基本精神（目標）とする、わが国初の民間寄付金を基にした「寄付基金教授」を採用いたしました。これは国立大学の法人化によって初めて可能となった柔軟な人事制度と言えます。

現在、科学技術振興調整費による戦略的研究拠点育成事業により、先導的、学際的な科学技術研究をになう国際競争力のある高等研究所を目指して2001年から2006年3月までの5ヵ年計画で新しい構想の組織運営改革に取り組んでいるところです。これらの改革の中間成果として本年度より

- 1）従来の大部門を廃止し、機動的で柔軟な研究者クラスター制の導入
- 2）所長の基に専ら運営を担当する経営戦略室を設立し、教育・研究を担う教授会との役割分担
- 3）所長の最終選考権をもち、運営に関し所長に助言を与えることを使命とする、過半数以上の外部メンバーからなる先端研ボードの設立

などの新しい組織形態を導入しました。今後さらに改革を進め、優れた研究成果を生み出す国際的に魅力ある卓越した研究拠点の創出を目指したいと思います。

これまで先端研は、学内還流システムなどを基礎とする高い人事流動性に支えられながら、先端的科学技術に関する萌芽的・先導的な基礎/応用研究や、「知財」「経済工学」といった文理の枠を超えた新しい学際領域分野の開拓などの研究活動をおこなってきました。今後さらに研究活動を活発化させ、サイエンティフィックイノベーションにもとづく卓越した成果を生み出し、それを積極的に社会に対し還元していきたいと希望しています。関係各位のご支援、ご協力をお願いいたします。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第49号発行
- 2.27 13号館改装工事 (6月30日)
- 3. 先端医療・知的財産政策 (第一製薬) 寄付研究部門終了
- 3.31 南谷崇センター長退任
- 4.1 先端経済工学研究センターを合併
大部門制を廃止、研究者クラスター制導入
実装エコデザイン (エコデザイン推進
機構) 寄付研究部門設置
国立大学法人東京大学発足
附置研究所として正式認可
経営戦略会議設置
CASTIが名称を東京大学TLOに
橋本和仁所長就任
先端研ニュース第50号発行
- 5.1 わが国初の寄付基金研究部門としてシ
ステム生物医学分野に興和基金教授設置
- 6.3 キャンパス公開 (～4日)
- 6.14 『挑戦続く東大先端研』(宮本喜一
著、日経BPクリエイティブ) 刊行
- 6.30 先端研 Watcher 終刊
- 7.1 先端研ニュース第51号発行
- 8.23 プラズマ結晶化技術コンソーシア
ム設立
- 10. 実装工学 (IMSI) 寄付研究部門終了
- 10.1 先端研ニュース第52号発行
- 11.22 「先端研フォーラム2004」開催
- 12.13 先端研ウェブサイトをリニューアル

社会

- 1.1 小泉首相が4度目の靖国参拝
- 1.12 山口県の養鶏場で鳥インフルエン
ザ発生
- 1.16 陸上自衛隊の先遣隊をイラクに派
遣、3月下旬活動開始
- 2.11 吉野家など牛丼販売停止
- 3.11 スペインで列車爆発テロ、200人近
く死亡
- 4. 政治家の年金未納問題が相次ぎ発覚
- 5.7 福田康夫官房長官が辞任、後任に細
田博之副長官
- 5.18 民主党新代表に岡田克也
- 5.22 小泉首相が2度目の訪朝
- 5.27 イラクで日本人フリージャーナリ
スト2人が殺害される
- 6.30 ライブドアがプロ野球近鉄バファ
ローズ買収に名乗り
- 6.1 長崎小6女児同級生殺害事件
- 6.5 年金制度改革関連法成立
- 6.28 イラクで暫定政権に主権移譲
- 7.1 紀伊山地の霊場と参詣道、世界遺産
に決定
- 7.11 参院選、自民敗北・民主躍進
- 7.15 日本歯科医師会の前会長の橋本元
首相への不当献金発覚
- 8.9 関西電力の美浜原子力発電所で蒸気
漏れ事故
- 8.13 アテネ・オリンピック開催、日本
は史上最高のメダル37個
- 9.1 北オセチア共和国ベスランで学校占
拠事件、3日ロシア特殊部隊突入、323
人死亡
- 9.18 プロ野球で日本初のストライキ
- 10. 西武グループで株義偽装問題が発
覚
- 10.1 イチロー選手がメジャーリーグの
シーズン最多安打
- 10.23 新潟県中越地震
- 11.1 新紙幣発行
- 11.2 ブッシュ米大統領、再選
東北楽天イーグルスが50年ぶりに球界
に新規参入
- 11.17 奈良女児殺害事件
- 12.26 スマトラ島沖地震発生、津波で15
万人以上死亡

科学

- 2. 東大と理化学研究所などのチームが「ク
オーク凝縮」現象を確認したと発表
- 2.11 ソウル大学などの研究チームが世
界で初めてES細胞の採取に成功
- 3.2 NASAが火星探査車の調査に基づき
かつて火星に水があったと発表
- 3.29 東京高裁が米国の元勤務先から研
究資料を持ち出したとして起訴された
研究員の米国引き渡しを拒否
- 4. 文部科学省が科学研究費補助金の不正
使用防止へ罰則強化
- 5. 半導体エネルギー研究所が薄く曲げ
ることができるCPUを開発
- 5. インターネットのファイル交換ソフト
Winnyを開発した東大大学院助手男
性を逮捕
- 6.11 高エネルギー加速器研究機構など
のグループがニュートリノに質量があ
る確率は99.99%と発表
- 6.20 NASAの土星探査機「カッシーニ」
が史上初の周回軌道入りに成功
- 6.21 民間企業による初の有人宇宙船「ス
ペースシップワン」が3分間の宇宙飛行
に成功
- 7. 日本産科婦人科学会、慶応大の着床
前診断実施を初めて承認
- 7. NTTドコモが「iモード・フェリカ」
サービス開始、携帯電話をレジでかざ
すだけで代金決済ができる
- 7. 富士通研究所と東大生産技術研究所
が量子暗号通信の速度を大幅に向上さ
せる技術を発表
- 7.13 総合科学技術会議生命倫理調査会が
ヒト胚の作製利用を条件付きで解禁
- 7.20 東京で最高気温39.5度を記録、過
去最高
- 8.24 理化学研究所と東大などのグルー
プは原子核が超高密度になる新現象を
発見したと発表
- 9. 環境省がダイオキシン削減目標を達
成したと発表
- 9.1 浅間山が21年ぶりの中規模噴火
- 9.28 理化学研究所が113番目の新元素を
発見したと発表
- 10.1 気象庁の富士山測候所が閉鎖、72
年の有人観測の歴史に幕
- 10.20 史上最多の年10個目の上陸となっ
た台風23号で平成最悪の死者94人、行
方不明3人の被害
- 10.21 日米欧などの国際研究チームがヒ
トの遺伝子の数が2万2000個程度であ
ると発表
- 11.11 韓国が20年近くにわたり未申告で
ウラン濃縮やプルトニウムの抽出を行
っていたことをIAEAが発表
- 12. 任天堂が「ニンテンドーDS」を、ソ
ニーコンピュータエンターテインメン
トが「プレイステーション・ポータブル」
と、新形態ゲーム機を相次ぎ発売

2005年（平成17年）



先端知財人材育成オープンスクール開講式での
橋本和仁教授

「安全・安心と科学技術」プロジェクト共通
コース・オープンスクールの風景

2005年所長あいさつ

所長 橋本 和仁

東京大学先端科学技術研究センターは1987年に設立されて以来、「学際性」「流動性」「国際性」「公開性」の4つの理念を基礎に、先端的な研究活動を行う一方、その運営についても先駆的な試みを続けています。

特に2005年度は2001年度から5ヵ年計画で進めてきた科学技術振興調整費による戦略的研究拠点育成事業の最終年度にあたり、目標として掲げてきた「先導的、学際的な科学技術研究をになう国際競争力のある高等研究所」としての成果が求められる重要な1年になります。これまでは、(1) 従来の大部門制を廃止し、機動的で柔軟な研究者クラスター制を導入する、(2) 運営を担当する経営戦略室を設置し、教育・研究を担う教授会との役割分担をはかる、(3) 所長の最終選考権を有し、運営に関して助言を与えることを使命とする、過半数以上が組織外のメンバーからなる先端研ボードを設置する、などの具体的な組織改革に着手、実行してきました。そこで、今年度は研究、教育の面において今後の先端研の目指す方向を明らかにしつつ、環境整備を行い、システム改革の総仕上げにしたいと考えています。

まず、先端的な研究分野の国際的拠点となる研究グループを組織化していきます。すでに、戦略的研究拠点で進めているプロジェクトの中から、「バリアフリープロジェクト」が東京大学の総長プロジェクトのひとつとして認定され、また「未来創薬プロジェクト」が民間企業との大型産学連携を中心に組織されています。さらに環境・エネルギー研究や次世代ユーザー・インターフェイス研究、ものづくり支援システム研究などが、国際的研究拠点化を目指して活動を始めています。またあらためて申し上げるまでもなく、先端研の特長は研究者や研究分野の多様性にあります。実際、現在先端研に所属する教員の出身研究分野は工学、理学だけでなく、医学、経済学、法学、教育学、政治学など、きわめて多岐にわたります。これらの研究者が同じ研究所に在籍しているのはきわめてユニークであり、先端研自体がひとつの総合大学の様相を呈しているともいえます。その点では、総合大学（university）以上にひとつのコンパクトな世界（universe）を形成している先端研の使命は研究（者）相互の関連性を見出し、新たな研究分野を創出することであり、その使命を果たすことが先端研の存在意義を示すといえるのではないのでしょうか。

さて、これらの研究活動とともに先端研があらためて力を入れたいと考えているのは「人材育成」です。そこで、先端研の教員が兼担している「東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻」という博士課程のための大学院コースにおいて、新たに先端人材育成プログラムを導入することに致しました。同プログラムは、“leadership Performance, Presentation, Proposal”を意味する「PPP教育」を掲げ、アカデミアにとどまらず広く、実社会でリーダーシップをとれる人材育成のために、高い独創性・創造性と幅広い基礎知識と自己の研究構想を理論立てて文章化する技術や、英語で説明・発表する技術を身につけさせることを目指しています。これまで学生は、「受動的」に授業を受けることで単位を取得してきました。それに対して今後は、主体性を持って「能動的」に「自己教育する力」を自ら養い、最終的には大学や企業の現場で実際のプロジェクトをマネジメントするにあたって、高いパフォーマンスを上げられる人材の育成を目指していきたいと考えています。

これまでもそうであったように、先端研はこれからも果敢に課題に立ち向かい、新しい挑戦を続け、時代に先んじた真の国際競争力をもった高等研究機関の実現に向けて、確実に歩みを進めて参ります。これからも引き続き、関係各位のご理解、ご支援ならびにご協力を宜しくお願い申し上げます。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第53号発行
- 1.31 メールマガジン「先端研NAVI」創刊
- 2.21 浅野史郎宮城県知事来訪
- 2.24 2005年デジタルエンジニアリングワークショップ(～25日)
- 3.4 第2回体験記録とその応用シンポジウム
- 3.9 東大先端研 興和基金・システム生物医学分野 発足記念式
- 3.24 先端学際工学専攻修了式
- 3.31 佐々木勉事務長退任
- 4.1 先端研ニュース第54号発行
井上幸太郎事務長就任
- 5.13 全日本ノルディックススキーチームが先端研風洞実験棟で実験
- 6.2 キャンパス公開(～3日)
- 6.22 「安全・安心と科学技術」プロジェクト、オープンスクール共通コース開講
- 7.1 先端研ニュース第55号発行(リニューアル)
- 7.4 知財人材育成オープンスクール募集開始
- 7.8 第1回RCASTリエゾンプログラム開催
- 7.28 第2回RCASTリエゾンプログラム開催
- 9.19 先端研バリアフリープロジェクト共催公開シンポジウム
- 9.28 先端知財人材育成オープンスクール開講
- 9.30 先端学際工学専攻修了式
- 10. 新日本石油とのあいだでトライアル連携
- 10.1 先端研ニュース第56号発行
- 10.28 ベトナム国家科学技術政策会議メンバー来訪
- 11.18 日本・スウェーデンイノベーションセミナー
- 11.21 第3回RCASTリエゾンプログラム開催
- 11.25 ワークショップ「特許データベースとイノベーション研究」
- 11.30 「東大シャープラボ」設立
- 12.2 ATACカンファレンス2005
松田岩夫科学技術政策担当大臣視察
- 12.5 シンポジウム「コンピュータを利用した言語コミュニケーション」

社会

- 1.8 広島福祉施設でノロウイルス集団感染
- 1.25 海老沢NHK会長が辞任
- 2.7 中部新国際空港開港
- 2.8 ライブドアがニッポン放送株の約30%を保有していることを公表、4月18日解決
- 2.10 北朝鮮が核兵器の製造保有を公式に宣言
- 3.25 日本国際博覧会(愛・地球博)開催
- 4.1 ベイオフ全面解禁
- 4.2 ローマ法王ヨハネ・パウロ2世が死去
- 4.25 JR西日本・福知山線脱線事故、107名死亡
- 6.27 天皇后両陛下がサイパン島訪問
- 7.7 ロンドンで同時爆破テロ事件
- 8.8 郵政民営化関連法案の参院採決、否決で即日首相は衆院解散
- 8.26 ミフロリダ州にハリケーン・カトリナ上陸
- 9.11 衆院選、自民圧勝・民主大敗
- 9.17 民主党代表に前原誠司
- 10.1 日本道路公団など4公団民営化
- 10.17 小泉首相が靖国参拝
- 10.25 皇室典範に関する有識者会議が皇位継承資格を女性女系にも拡大することで一致
- 10.27 フランスで暴動発生、非常事態宣言出す事態に
- 11.15 紀宮清子さまと黒田慶樹さんが結婚
- 11.17 耐震強度偽装事件が発覚
- 12.8 米国産牛肉の輸入再開
- 12.10 京都の学習塾で講師が女児刺殺

科学

- 1. 東芝が携帯電話で離れた場所にあるパソコンのソフトを遠隔操作できる技術を発表
- 1. ミアップルコンピュータ社が携帯音楽プレーヤー「iPod shuffle」を発売
- 1.14 欧州宇宙機関の探査機「ホイヘンス」が土星最大の衛星「タイタン」に着陸
- 1.26 厚生労働省エイズ動向委員会が04年のエイズ患者・感染者が初めて1000人突破と発表
- 2.4 BSEに感染した牛を食べて発症する「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病」患者が国内で初めて発生した可能性が高いことが判明
- 2.16 京都議定書がロシアの批准により発効
- 2.26 「H2A」7号機打ち上げ成功、ひまわり6号軌道投入成功
- 3.1 高エネルギー加速器研究機構の国際研究グループが粒子グルーオンで構成される新粒子を発見したと発表
- 5. 東大大学院がごく小さな高分子樹脂の球を並べて光を通すことで光が伝わる実質的な速さを40分の1にすることに成功
- 5.25 東京女子医大が国産の体内植え込み型補助人工心臓手術の1例目を実施
- 5.30 厚生労働省が日本脳炎の予防接種を中止するよう緊急勧告
- 6.1 特定外来生物被害防止法施行
- 6.28 ITER(国際熱核融合実験炉)の本体建設地がフランスに決定、日本は誘致断念の見返りに関連施設建設や本部組織の機構長ポストなど得る
- 7. 北海道知床が世界自然遺産登録
- 7. 富士通が曲げても画像が乱れないカラー電子ペーパーを発表
- 7.10 X線観測衛星「すざく」、M5ロケットで打ち上げ
- 7.26 米航空宇宙局がスペースシャトル飛行再開1号機「ディスカバリー」打ち上げ成功、野口聡一さん搭乗
- 7.28 日米仏中の共同研究チームが地球内部のウランなどが崩壊して発生する素粒子「地球ニュートリノ」を検出したと発表
- 7.29 米カリフォルニア工科大などが太陽系の最遠部に「太陽系10番目の惑星」を発見
- 8.24 光通信衛星「きらり」、ロシア・ウクライナ合弁企業のロケットで打ち上げ
- 9. 地球深部探査船「ちきゅう」が運用開始
- 10. 東大などの研究チームが高速データ通信の世界最速記録を樹立
- 10.1 核燃料サイクル開発機構と日本原子力研究所が統合した独立行政法人「日本原子力研究開発機構」発足
- 10.3 国内初の西ナイル熱患者発生、米国で流行中のウイルス感染症
- 10.10 宇宙航空研究開発機構の小型無人超音速機、飛行実験成功
- 10.11 国の原子力委員会が原子力政策大綱を正式決定
- 10.28 厚生労働省が新型インフルエンザ出現に備えて対策推進本部を設置
- 11.26 惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワへの着陸と岩石採取に成功
- 12.23 韓国の研究者がES細胞の実験結果を捏造していたことが発覚

2006年（平成18年）



第1回インテリクチュアルカフェ（11月8日）。
先端研がトライアル連携している新日本石油に
よる意見交換会である



11月から始まった屋台村。13号館と14号
館のあいだはしばし活況を呈した

2006年所長あいさつ

所長 橋本 和仁

東京大学先端科学技術研究センター（先端研）は、来年で設立二十周年を迎えます。設立当初から、「学際性」「流動性」「公開性」「国際性」の4つのモットーを掲げ、その具現化を目指してきた先端研は、特に最近では、2001年から約5年間にわたって「戦略的研究拠点育成事業『人間と社会に向かうオープンラボ』プロジェクト」として組織改革を進めてきました。これは、先端研がこれまでの歴史に安住することなく、さらに発展し飛躍するための大きな原動力となっています。

いくつかの例をあげましょう。まず研究面では旧来の大部門制を廃止し、機動的で柔軟なクラスタ制を導入しました。さらに、従来の定員制度に縛られない特任教員制度を導入して、国内外を問わず、様々な分野の研究者を先端研に迎えることができました。これは、新たな研究領域の開拓に大きく貢献しています。組織運営面では、経営戦略室の設置により運営・経営と教育・研究の役割分担を明確にしました。また、先端研ボードを設置して第三者監視機能を備える一方で、開かれた所長選挙制度を導入するなど、研究機関としての説明責任や透明性にも配慮しています。これらはいずれも、上述した先端研の4つの基本原則に則っており、かつその啓発を促すものばかりです。

ここで昨年度の取り組みについてご紹介します。まず、産学連携に関して新しいスキームを採用しました。これは従来のような個別具体的な共同研究か、漠然とした企業寄付かの二者択一ではなく、その中間にあたるような連携形態を企業にご提案しているもので、産学連携にかなり早い段階から積極的に取り組んできた先端研ならではのスキームだといえます。本格導入を始めた昨年（2005年）10月からこれまでに既に2件、成約しており、それ以外に交渉中のものもあります。

加えて特筆すべきは教育面での改革です。先端研は工学系研究科の先端学際工学専攻を通じて、博士課程の教育・研究を行っており、また、設置当初（1992年）より、社会人教育にも力を入れてきました。今回、それを一歩進めて、「リーダーシップのとれる人材育成」という目標を明確に掲げてカリキュラムを導入しました。今、求められている大学院教育とは何なのかを見据え、受け身ではなく主体性をもって自己教育できる人材、研究室にとどまらず、企業など組織の現場で実際のプロジェクト運営において高いパフォーマンスを上げられる人材の育成を目指しています。

国立大学法人化から2年。社会的背景もあいまって、今、大学はその真価が問われる難しい時代を迎えています。その中で、これまで勇気をもって挑戦し、果敢に改革を推し進めてきた先端研の存在意義が、あらためて見直される時期にあるのではないのでしょうか。学際的な研究分野を内包し、小さな総合大学のような組織を呈する先端研は、これまでの経験に裏打ちされた実績を掲げ、先導役という使命を果たす時が来たのかもしれない。そのような自覚を持って、これからも先端研は前進し続けたいと思っています。

皆さまのご理解、ご指導、ならびにご協力を心からよろしくお願い申し上げます。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第57号発行
- 2.17 科学技術振興調整費知的財産人材育成事業 イノベーションと知的財産 米国パルミサーノレポート・仏ベファレポートと日本の針路
- 3.9 第3回先端研フォーラム「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトを振り返って
- 3.20 第4回RCASTリエゾンプログラム開催
- 3.20 デジタル エンジニアリング ビジョン シンポジウム
- 3.23 先端学際工学専攻修了式
- 3.31 科学技術振興調整費 戦略的研究拠点育成事業終了
4. AcTeBの機能を吸収し経営戦略企画室発足
- 4.1 先端研ニュース第58号発行
- 6.1 キャンパス公開、学術講演会（～3日）
- 6.2 第1回学際バリアフリー研究ワークショップ「Hybridianの時代——人とテクノロジーの融合が生み出す新しい能力をどう評価すべきか?」
- 6.2 JSTシンポジウム：ユビキタス社会におけるガバナンス
- 6.15 富士電機システムズと組織的な連携に関する協定書に調印
- 7.1 先端研ニュース第59号発行
- 7.9 内閣府江利川毅次官が視察
- 8.27 障害のある中・高校生のための講演会：君たちは大学に進学するために何をすべきか？主催
- 9.29 先端学際工学専攻修了式
- 10.1 先端研ニュース第60号発行
- 10.19 「地球温暖化防止とその戦略～脱炭素社会に向けて～」主催
- 11.8 第1回インテレクチュアルカフェ開催
- 11.20 柳田博明元センター長（名誉教授）死去
- 11.20 先端研に「駒場東大RCAST村」と称する屋台が登場
- 12.11 研究戦略公開シンポジウム「超低消費電力化技術のもたらす近未来情報社会像」開催
- 12.18 デンソーとトライアル連携

社会

- 1.1 三菱東京UFJ銀行発足
- 1.20 米国産牛肉全面禁輸
- 1.23 ライブドア問題で堀江貴文社長ら逮捕
- 2.10 トリノ冬季オリンピック開催
- 3.20 ワールドベースボールクラシックで日本が優勝
- 3.31 偽メール問題で永田寿康議員辞職、民主党前代表辞任、後任の代表に小沢一郎
- 5.1 在日米軍再編最終合意
- 6.3 港区でシンドラー社製エレベーターが誤作動、高校生死亡
- 6.5 村上世彰がインサイダー取引で逮捕
- 6.9 サッカーのドイツ・ワールドカップ、日本は一次リーグ敗退
- 6.20 自衛隊イラク撤収を小泉首相が表明
- 7.5 北朝鮮が日本海に弾道ミサイル発射
- 7.14 日銀がゼロ金利政策の解除を発表
- 8.15 小泉首相が靖国参拝
- 9.9 秋篠宮紀子さまが男児ご出産、悠仁さまとご命名
- 9.26 安倍晋三内閣発足
- 9.30 YS-11が国内の定期路線から引退
10. 北朝鮮が「核実験に成功」と発表
- 10.8 安倍首相が中国、韓国を訪問
- 10.24 携帯電話の番号ポータビリティ制度開始
- 10.31 タウンミーティングのやらせ発覚
- 12.8 宮崎県知事を競売入札妨害容疑で逮捕
- 12.15 教育基本法改正案成立
- 12.15 防衛省への昇格法案成立
- 12.30 フセイン元大統領に死刑執行

科学

- 1.12 「新型インフルエンザ早期対応に関する東京会議」開催
- 1.24 H2A8号機打ち上げ成功、陸域観測技術衛星「だいち」
2. 日立製作所が世界最小の無線通信用ICチップを開発
- 2.18 H2A9号機打ち上げ成功、運輸多目的衛星「ひまわり7号」
- 2.22 M5打ち上げ成功、赤外線天文衛星「あかり」
- 2.28 米「トムソンサイエンティフィック」発表の「世界で最も注目された研究者ランキング」で奈良静男大阪大教授が1位に
3. 第3期科学技術基本計画の推進戦略を決定、5年間の研究開発投資目標を25兆円とする
- 3.1 気象庁が05年12月～06年2月の大雪を「平成18年豪雪」と命名、死者152名
- 3.31 青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場で試運転「アクティブ試験」開始
4. 政府が出産や育児で研究活動を中断した女性研究者らの現場復帰を支援する「特別研究員復帰支援事業」を開始
4. 宇宙航空研究開発機構が高度6000kmの軌道を周回する通信実験衛星と地上局との間でレーザー通信に成功
5. NTT物性科学基礎研究所が世界で最も波長の短い光を出す発光ダイオードを開発
- 5.8 厚生労働省が国内のメタボリック症候群の推計患者数（40～74歳）を940万人と発表
6. フィンランドのミレニアム技術賞に中村修二米カリフォルニア大教授
6. 豊橋科学技術大学が発光素子を組み込んだ大規模集積回路の開発に成功
- 6.15 中部電力の浜岡原発でタービン破損事故
- 6.16 がん対策基本法成立
- 8.10 京大再生医科学研究所、生殖細胞使わずに皮膚から万能細胞作製に成功と発表
- 8.22 国際数学連合の初代「ガウス賞」に伊藤清京大名誉教授
9. 格付投資情報センター、東大を最上級のAAAと評価
- 9.11 H2A10号機打ち上げ成功、情報収集衛星
- 9.19 原子力安全委、耐震設計審査指針を25年ぶりに改正
- 9.23 M57号機打ち上げ成功、太陽観測衛星「ひので」
- 11.15 千島列島沖でM7.9の地震、北海道から沖縄まで広い範囲で津波観測
- 11.7 北海道佐呂間町で竜巻発生、9人死亡
11. 宇和島徳洲会病院などで病気腎移植が明らかに
- 11.21 国際熱核融合実験炉（ITER）協定に日米露中韓印・EUが調印、ITER機構長に池田要元クロアチア大使
- 11.16 京都市の60歳代男性が狂犬病発症、国内で発症は36年ぶり
12. H2A11号機打ち上げ成功、技術試験衛星「きく8号」

2007年（平成19年）

2007年所長あいさつ

所長 宮野健次郎

設立20周年

先端研は今年で設立20周年を迎えました。設立当初に掲げた「学際性」、「流動性」、「国際性」、「公開性」のスローガンが、どの程度実現できたかについてはいろいろな評価があると思いますが、ただ一つ明らかなことは、これらが20年を経た現在、最早先端研を際立たせる標語たりえないということです。それだけ、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。とりわけ法人化後の3年間に起きた変化はそれ以前とは質的に異なるものです。

従来から、先端研は大学における制度改革の先頭を走ってきたという自負もっています。寄附部門、株式会社東京大学TLO（通称CASTI、日本初のTLO）、特任教員などは、先端研が先鞭を付け広い支持を得ている制度です。法人化前の国立大学にあっては、制度の壁を破るということ自体が改革であり得ました。壁がはっきりしている時代は、何が問題かという共通認識が得やすかったとも言えます。おそらくこれらの試みが評価されて、法人化と時を同じくして先端研は東京大学11番目（最後）の附置研究所になりました。

さて、法人化後の大きな変化は、明瞭な制度の壁が無くなったことです。未だいろいろな制約はありますが何れも本質的なものではないように思われます。3年経って法人化の意味がようやく明らかになりつつあるとき、先端研が設立20周年の節目の年を迎えるのも偶然ではないかも知れません。先端研ではこの海図の無い海を航海するためにすでにいろいろな取り組みを始めています。

現状

法人化に伴い、研究所に研究部門を置くという文部科学省令が無くなりました。先端研ではいち早く部門制を廃止し、全ファカルティメンバーがフラットに位置するという大前提を立てました。その上で、研究者を大まかにクラスターで分類し、研究者同士が対等の立場で自由に協力し合うことをクラスター制と呼びました。ただし、これが「制度」でないことは強調しておきます。組織的には緩い、しかし研究上は固く結びついた研究者連合は、2001年から2006年にわたって行われた「戦略的研究拠点育成事業」においてオープンラボとして実体化されて来ましたが、やがてその中から、総長プロジェクトとして「バリアフリー領域創成プロジェクト」が、そして「システム生物学研究拠点」、「ナノエレクトロニクス研究拠点」、「環境エネルギー研究拠点」、「先端コンテンツ研究拠点」などの研究拠点が生まれました。これらは真に分野横断的な研究であり、部門の壁を取り払うこと無くしては生まれなかったと言ってよいでしょう。

フラット化は同時に学問分野を根本から問い直すことに繋がります。人事を始めるにあたって、所長に委嘱された分野検討委員会がまずどのような学問分野が先端研に必要なか、を議論します。検討委員会の議論は教授会で披瀝され、その方針が認められると人材を探す作業に入ります。過去5～6年をかけて、このような手続きにより「人間を知る」分野を強化するために、認知科学、脳科学、情報科学の人事が重点的に行われました。先端研の資源は限られていますから、この作業は先端研にかつてあった分野を放棄することを意味します。おそらく5年程度で分野が立ち上がり、続く5年程度で成否が明らかになり、次の分野検討へ繋げるというサイクルが続くものと思われます。分野の検討は、いわゆる文系・理系も横断する形で行われます。これも、フラット化の効用です。

さて、フラットな社会では管理の仕方が明確である必要があります。このため、先端研では法人化に合わせて研究・教育と運営・管理を分離し、教授会では研究と教育に関することのみを議論し、運営と管理は経営戦略会議が行うこととしました。経営戦略会議は教員、職員、経営戦略企画室のそれぞれの代表からなり、予算や施設の管理から資源の再配分や内部統制など教育・研究以外のあらゆることを議論します。ここで重要なことが二点あります。まず、教員と職員がこれもフラットな関係で管理・運営の議論をすること。問題意識の共有化は、組織がスムーズに運営されていくための大前提です。第二に、経営戦略企画室の存在です。これは、従来の大学組織には（少なくとも部局単位では）全く無かったもので、組織連携、広報、コーディネーションなどの専門家で構成され、様々な種類の企画・立案・実施の実務を担当しています。これらの人たちの力無くして、一貫性のある組織運営は不可能です。

展望

以上、歴史と現状をご紹介します。最後にこれから先端研が目指す方向性について述べます。

その第一は、内からの人事制度改革です。先端研で特任教員制度を導入したとき、一般の教員と同じように人事投票権や共通資源の配分を受ける権利を持った教員像を描いていましたが、2007年度になってようやくそのような特任教員が教授レベルで現実のものとなりました。今後は仕事の内容や働いた割合を考慮するエフォート制やそれに基づく財源混交雇用などを盛り込んだ人事制度が実行できることを希望しています。個々の事情に応じた多様な雇用形態は、今後の組織の活力を維持するために必要です。資源の全体量が決まっている以上、このような人事制度は既得権を持つ者に不利に働きますが、先端研の歴史に照らしてそのような障害が乗り越えられるだろうと楽観しています。

第二は、分野横断的な教育の仕組みです。先端研は全国の大学附置研の中で唯一所属専攻を持つという、教育に深く関わってきた歴史を持ちます。最近では、領域の境界が無いという特性を活かしてPPP教育と銘打ったリーダーシップ教育を開始し、また環境・エネルギーという分野横断的な教育を一貫して行う体制を、東大内の多数の部局を巻き込んで組織しつつあります。先端研が教育の現場において汗をながすことももちろん重要ですが、このような全学を巻き込んだ活動のリーダーシップをとることが先端研ならではの重要な使命であると思います。

みなさまのご支援を切に期待します。

先端研

- 1.1 先端研ニュース第61号発行
- 2.1 「福祉のテクノロジー支援工学の基礎技術」コーススタート
- 2.20 第6回JIPA知財シンポジウム：経営に資する知財活動の次なるステップに
- 2.22 シアン化カリウム等の盗難を確認、23日記者会見
- 3.3 科学技術振興調整費 新興分野人材養成 東京大学先端科学技術研究センター「知識創造専門職育成マネジメントユニット」最終報告会
- 3.22 先端学際工学専攻修了式
- 3.31 橋本和仁所長、井上幸太郎事務長 退任
- 4.1 宮野健次郎所長、鈴木秀雄事務長就任
- 4.1 先端研ニュース第62号発行
- 4.18 第1回20周年記念連続セミナー
- 5.21 先端研設立20周年
- 5.29 第2回20周年記念連続セミナー
- 5.31 キャンパス公開（～6月2日）

社会

- 1.11 不二家が洋菓子販売休止、消費期限切れ牛乳使ったシュークリーム出荷で、3月26日山崎製パンの傘下に
- 1.21 宮崎県知事に東国原英夫（そのまんま東）氏が当選
- 2.18 「東京マラソン2007」開催、3万人が都心を走る
- 2.21 日銀が0.25%利上げ決定、0.5%に、06年7月のゼロ金利解除以来
- 2.22 熊本市の慈恵病院が申請した「赤ちゃんポスト」を国が認可
- 3.22 公示地価が16年ぶりに上昇、大都市では過熱感も
- 4.1 大学の「助教授」「助手」が「准教授」「助教」「助手」に再編
- 4.3 社会保険庁加入記録のうち加入者不明が5000万件あることが判明
- 4.8 東京都知事に石原慎太郎氏3選
- 4.16 米の大学で銃乱射、33人死亡の過去最悪の惨事に
- 4.17 伊藤一長長崎市長が銃撃され、翌未明死亡
- 4.24 1～3月の自動車販売台数、トヨタ自動車の世界一
- 5.14 憲法改正の手続きを定める国民投票法が成立
- 5.28 松岡利勝農水相が自殺
- 5.30 白鵬が横綱昇進

科学

- 2.1 日本魚類学会が差別的な言葉を含む魚の名前の改名を決める
- 2.24 H2A12号機打ち上げ成功、情報収集衛星4機体制に
- 3.30 全国の12電力会社が発電所における不適切事例4518件を報告、うち原発関連97件
- 3.20 厚生労働省、インフルエンザ治療薬タミフルの10代への投与中止指示
- 4.20 海洋基本法成立（7月1日施行）
- 5.29 15歳以上のはしか感染者が週間記録で過去最高に

